

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「近代日本の「知」の形成と漢学」

中間報告書

平成 30 年 3 月
二松學舍大学

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「近代日本の「知」の形成と漢学」
中間報告書

目 次

はじめに	1
I 研究プロジェクトの目的・意義	2
II 研究の組織・体制	3
III 研究計画及び進捗状況・成果	6
資料	
1.主催事業	
1-1 シンポジウム・学術会議・ワークショップ	22
1-2 講演会・セミナー	37
1-3 学術交流会	38
1-4 研究報告会	39
1-5 テーブルスピーチ	40
1-6 公開講座	41
2.研究成果	
2-1 刊行物	42
2-2 ホームページ	43
2-3 データベース	44
2-4 研究成果 事業推進担当者	45
2-5 研究成果 研究員	53
2-6 研究成果 研究支援者	54
2-7 研究成果 研究助手	57
3.対外活動	
3-1 海外調査	60
3-2 国内調査	61
3-3 派遣	63
4.諸会議	
4-1 担当者会議	67
4-2 関係者会議	67
5.経理	
5-1 経費	68
6.規程	
6-1 二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に関する規程	69
6-2 二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究員に関する規程	70
6-3 二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究支援者に関する規程	71
6-4 二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究助手に関する規程	72

はじめに

二松學舎大学は明治 10 年 10 月 10 日創立の漢学塾を起源とし、以来、一貫して漢学・中國学を核とする教育研究機関として歩んできた。近年はその歴史に鑑み、私学としてのアイデンティティーを闡明にすべく、日本漢文学の教育研究に力を注いできた。先に文部科学省 21 世紀 COE プログラムに採択されて「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」(2004~2008 年度) を推進し、本プロジェクトはその後継事業として位置づけられるものである。

本学は昨年 10 月、創立 140 周年を迎える、水戸英則理事長の指揮のもと、教育・研究機関としての更なる進化と発展をめざして全学的にさまざまな取り組みを行っている。なかでも学術研究の核となる活動が本プロジェクトに代表される「日本漢学」に関する研究である。従来の東アジア学術総合研究所内に新たに改組して日本漢学研究センターを開設し、日本漢学研究の拠点形成をより明確化するよう努めている。

明治 150 年を迎えた今年、「漢学」から日本近代化の特色や問題点を探る本プロジェクトにおいても、文部科学省からの要請に応えて、企画展示「三島中洲と近代 其六 —— 近代日本と岡山の漢学者たち」やフランス・リール大学との共催による国際シンポジウム「レオン・ドロニーとその時代」を開催して、研究成果の一端を公開することを予定している。

近年、我が国のみならず世界的にも人文学を取り巻く環境は極めて厳しいものがあり、また人口動態の推移とも相俟って高等教育は抜本的な改革が必要とされている。地球環境問題・国際間協調など世界情勢はさまざまな困難に直面し、情報化社会・グローバリゼーションの進行に伴う人心の荒廃は憂慮すべき状態にあるが、今こそ我々は人類が築き上げてきた「人文学」の蓄積に眼を向けるべきである。本プロジェクトの取り組みは小さな試みに過ぎないけれども、二松學舎の過去と現在の情勢に鑑み、「日本漢学」の存在意義を国内外に広く問おうとするものである。

平成 30 年 3 月
研究代表者 町 泉寿郎

I 研究プロジェクトの目的・意義

21世紀COEプログラム以来の本学における「漢文研究」の一貫した考え方は、「日本学としての漢文研究」であり、それは漢文を材料とした新たな日本学の試みであって、日本人が創作した漢詩文を主な研究対象として日本文学の一部分をなす日本漢文学とはその意義も目的も異なる。日本漢文学の目的が漢詩文を通じた日本人の思情の追求であるのに対して、本プロジェクトの目的は、「漢文」の研究と教育が、各時代において社会的・政治的状況や教育制度等と関わりながら、我が国における「知」の形成、また人間形成や社会秩序形成に、果たした意義を検証することにある。

通時的な研究を掲げた先の「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」に対して、本プロジェクトでは日本の近代化が進行した19世紀～20世紀前半、「漢学」（漢文による学び）が学術と教学に解体・再編される過程において、「漢文」による研究と教育を通して、近代日本がどのような「知」を形成し、それによってどのような人間形成・社会秩序形成をしたかを実証しようとする。

「漢学」は近代教育制度の整備とともに、西洋の「知」に席を譲って単に衰退し断絶したのではなく、学術面では中国学・東洋学に脱皮する一方で、教学面では1890年前後に「国語」が中等教育の教科として創成されるにあたって漢文はその一翼を担い、漢文を用いた言語と道徳に関する教学として広く国内に定着した。学術としての中国学・東洋学が近代日本の形成とどのように関わり、どのような影響をもたらしたのかは、今こそ問い合わせべき問題である。また従来、教育史における中等教育研究の立ち後れが一因となって、「国漢」と称された教学体制の研究は極めて不十分である。「漢学」が学術と教学に解体・再編され変容するさまを明らかにし、「漢学」から日本近代化の特色や問題点を探ることに、本プロジェクトの意義がある。

更に、この学術と教学の体制は国内だけにとどまらず、東アジア近隣諸国の研究教育にまで少なからず作用した。日本の近代化が東アジア諸国に及ぼした影響、および東アジア地域における我が国の現状に照らしても、漢文の研究教育について近隣諸国と連携しながら進める必要性は高く、その意義付けは急務である。東アジア諸国など国外研究者と連携して、「漢学」から日本近代化の特色や問題点を探ることに、本プロジェクトの意義がある。これは過去の真摯な反省にたち、東アジア地域における日本の立ち位置を求めてどのような人材を育成すべきかという今日的課題にも深く関わるものである。また、日本文学研究だけでなく、中国古典学の研究蓄積を活用して行うこと、本プロジェクトの学術的特色がある。

II 研究の組織・体制

本プロジェクトに言う「漢学」は広く漢文による学習の意味であり、それが我が国の「知」の形成に果たした役割は、普遍的総合的学知の意味と、中国に関する学知の意味がある。総合学としての「漢学」は19世紀を通して「洋学」に席を譲って衰退したと考えられるがちだが、実際には中等教育における「国語」と並んで「漢文」は言語と道徳に関する教学として再編され浸透した。また中国に関する学知からは近代的な中国学・東洋学が脱皮して日本近代学術の典型として今日に至る。

本プロジェクトでは、「漢学」が学術と教学に解体・再編された過程を、経時的、多角的に考察することにより、「漢学」から日本近代化の特色や問題点を探る。互いに関連する「近代学術と漢学」、「近代教学と漢学」、「近代文学と漢学」、「東アジアの近代化と漢学」の視点から研究を進めるために、次の4研究班を組織する。各研究者が研究班に所属して、研究を進める。

○学術研究班：「経学」「文献学」「漢学者」「学術史」等の観点から、昌平坂学問所から東京大学への過渡期の状況などを例として、19世紀～20世紀前半の儒者・漢学者・中国学者とその著述に関する基礎研究を進める。

○教学研究班：「教育制度」「国語教育」「漢文教科書」「皇室と漢学」「宗教と教育」等の観点から、江戸後期の儒教教学に遡り、「国語」教科の一翼を担った「漢文」教育の実証研究を進める。文部省検定試験制度や民間諸団体の活動も視野に入れる。

○近代文学研究班：例えば夏目漱石、森鷗外、依田学海、成島柳北、大沼枕山、正岡子規などの具体的な人物や作品を通して、西洋の知の摂取とのみ見られがちな近代化の様相を、「文学・教養概念の再編と漢学」の観点からとらえ直す。

○東アジア研究班：「日台関係」「日韓関係」「日中関係」など、近代東アジア諸国間の文物・人物の交渉に着目し、漢文教科書、筆談、医療文化など、「漢学」をめぐる様々な視点から東アジアの近代化と「知」の形成についてとらえ直す。

事業推進担当者

氏名	所属・職名	研究課題	班名	期間
町 泉寿郎	文学部・教授	漢学者の事績・学績 教育制度と漢学 漢蘭折衷医学にみる漢学・洋学	学術研究班（漢学者） 教学研究班 近代文学研究班	27. 6. 18-
高山 節也	文学部・教授	和刻本漢籍医書・仏典の目録作成	学術研究班（文献学）	27. 6. 18-
江藤 茂博	文学部・教授	国語教育と漢学の研究 一文検等	教学研究班 近代文学研究班	27. 6. 18-
田中 正樹	文学部・教授	三島中洲の経学 天皇・皇族に進講した漢学者	学術研究班（経学） 教学研究班	27. 6. 18-
牧角 悅子	文学部・教授	近代日中學術の比較 山田方谷・三島中洲を例とした教学 近代の文学概念に関する日中比較	学術研究班（学術史） 教学研究班 近代文学研究班	27. 6. 18-
山口 直孝	文学部・教授	文学者の教養形成における漢学の受容 —夏目漱石を中心として	近代文学研究班	27. 6. 18-
稻田 篤信	文学部・特別招聘教授	平賀中南と上方学芸の研究	学術研究班（経学）	27. 6. 18-
野間 文史	文学部・特別招聘教授	江戸～明治初期の春秋学 (平賀中南・安井息軒等)	学術研究班（経学）	27. 6. 18-
小方 伴子	文学部・教授	秦鼎の校勘学と鎖国体制下海外知見	学術研究班（文献学）	27. 6. 18-
大島 晃	東アジア学術総合研究所・ 特命教授	19世紀日本漢学者文集	学術研究班（漢学者）	27. 6. 18-12. 24
加藤 國安	東アジア学術総合研究所・ 特命教授	明治期漢文教科書	教学研究班	27. 6. 18-
パラモア・キリ	ライデン大学	キリスト教・儒教と教学	教学研究班	27. 6. 18-
徐 興慶	台湾国立交通大学・教授 台湾大学・教授 (2017-)	近代日台関係と漢学	東アジア研究班	27. 6. 18-
朴 嵩美	成均館大学校・研究教授 檀国大学校・兼任研究員 (2017-)	近代日韓関係と漢学	東アジア研究班	27. 6. 18-
王 宝平	浙江工商大学・教授	近代日中関係と漢学	東アジア研究班	27. 6. 18-
劉 岳兵	南開大学・教授	近代日中関係と漢学	東アジア研究班	27. 6. 18-
上地 宏一	大東文化大学・准教授	各種データベースの構築	データベースの公開	27. 6. 18-
合山 林太郎	大阪大学大学院准教授 慶應義塾大学准教授 (2016. 4. 1-)	19世紀日本漢学者文集	学術研究班（漢学者）	27. 12. 24-

支援事業連携者

氏名	所属・職名	協力内容	期間
松本 健太郎	文学部・准教授	広報活動・記録（特に映像関係）の支援	27.10.22-
ヴィグル・マティアス	浙江大学講師 文学部・講師（28.4.1-）	シンポジウム等における通訳の支援 等	27.12.24-
徳重 公美	姫路文学館・学芸員	学術研究班の研究活動 等	28.5.26-
宮本 雅也	文学研究科・博士後期課程	教学研究班の研究活動 等	28.5.26-
石川 忠久	学校法人二松學舎・顧問	公開講座の講師 等	28.7.21-
佐藤 保	学校法人二松學舎・顧問	公開講座の講師 等	28.7.21-
鄭 出憲	釜山大学校・教授	学術研究交流 等	29.3.2-
劉 雨珍	南開大学・教授	筆談関係研究での連携 等	29.3.2-
市來 津由彦	文学部・特別招聘教授	学術研究班の研究活動 等	29.10.12-
金 龍泰	成均館大学校・副教授	研究交流に関する覚書に基づく共同教材編纂	29.10.12-

研究員

氏名	学位	研究課題	期間
徳重 公美	博士（人文科学）	日本における儒教思想の展開 —徂徠学を中心に	27.12.1-28.3.31
山口 智弘	博士（学術）	幕末維新期における『管子』と經世論 —安井息軒の蝦夷地経略論を中心に	28.4.1-29.3.31
商 兆琦	博士（文学）	明治日本における儒学と近代思想 —情と理の問題を中心に	29.4.1-30.3.31

研究支援者

氏名	学位	専門分野	期間
川邊 雄大	博士（文学）	日中交流史、日本漢学	27.12.1-
清水 信子	修士（文学）	書誌学、日本漢学	27.12.1-

研究助手

氏名	専攻等	期間
阿部 和正	国文学	27.12.1-
加畠 聰子	中国学	27.12.1-
武田 祐樹	中国学	27.12.1-
楊 爽	国文学	27.12.1-
平崎 真右	国文学	28.4.1-

III 研究計画及び進捗状況・成果

全体計画　日本漢学研究のための研究拠点形成を目的として、プロジェクト全体として、目的を達成するために3本の柱を立てて活動している。

1. 國際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進
2. 日本漢学に関する各種の情報発信、および研究基盤の整備
3. 日本漢学分野の研究者養成

1. 研究活動としては、各研究班が主体となって、下記のような研究会の継続実施等を通して研究を推進する。

- ・学術研究班：三島中洲研究会、山田方谷研究会
- ・教学研究班：漢学塾研究会、漢文教科書研究会
- ・東アジア研究班：筆談録研究会、医療文化史研究会

また、各研究者が江戸後期～明治期の儒者・漢学者の事績と著述の調査を継続的に進める。特に、学祖三島中洲の出身地であり、また閑谷学校・陽明学・日中友好など様々な点で近代漢学の典型と目される岡山地方の漢学・漢学者に特化して研究を進める。

また、21世紀 COE プログラム以来の国際的研究ネットワークを更に継続発展すべく、日本漢学に関連する研究者に呼びかけて国際ワークショップ・国際シンポジウムを国内外で開催する。

2. 情報発信と研究基盤整備としては、国際学会・国内学会への参加やワークショップ・シンポジウム・講演会の開催を積極的に進めるとともに、研究基盤となるような各種の研究資料の収集・整理、および公開・公刊に関する活動を行う。

具体的には江戸後期～明治期の儒者・漢学者の関連資料の収集を促進し、収集資料の資料調査を進め、画像データベースとして公開を前提とした補修および資料撮影を行う。また、儒者・漢学者の人物情報に関するデータベースを作成すべく、資料収集・資料整理を行う。

また成果公開としては、論文集『日本漢文学研究』を継続刊行するとともに、新たに『近代日本漢学資料叢書』『近代日本漢籍影印叢書』や『講座　近代日本と漢学』を企画編纂して、順次刊行する。また、資料整理が進捗した資料については、展示会開催や目録作成・図録作成を通してその公開に努める。更に、高等学校教員向けの公開講座や市民向けの講演会など、日本漢文の普及啓蒙のための諸活動を行う。

3. 人材養成のための活動としては、学内学の若手研究者を対象とした公募によって、研究員・研究助手・研究協力員を任用し、論文作成・研究発表の機会を充実させることを通して、当該分野の専門知識を有する研究者の養成をはかる。

また、海外の日本学研究者向けの日本漢学セミナーを毎年継続開催し、海外の日本学研究

者に対する日本漢学の知識の向上に資するとともに、本学への日本漢学を専攻する留学生の募集に努め、本学における日本漢学研究の拠点形成をはかる。

進捗状況

1：岡山地域の漢学・漢学者に関する研究活動としては、平成27年度に倉敷市において国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」を開催し、併せて倉敷市と二松學舎大学の間に包括協定を締結した。以来、現地での資料調査や成果発表の機会が格段に増加し、また研究内容も確実に深化した。実業家と漢学（野崎武吉郎・白岩龍平・田辺為三郎ら）、キリスト教と陽明学（山田準、留岡幸助ら）、自由民権運動と漢学（西毅一・小松原英太郎・安達憲忠）など、さまざまな問題が具体的に明らかになり、地元との連携が着実に実りつつある。町泉寿郎・牧角悦子・田中正樹を中心に研究成果を挙げている。

学祖三島中洲の研究と関連して、三島中洲と親交のあった渋沢栄一の研究グループ（渋沢栄一記念財団）との共同研究が軌道に乗り、町泉寿郎が渋沢栄一を切り口に近代漢学の諸問題を取り扱った研究成果を刊行した。

また、関係機関の横の連携をはかるべく、全国各地に点在する各機関に呼びかけて平成29年度より新たに「漢学者記念館会議」を企画実施した。

国際的共同研究については、中国・浙江大学との筆談録に関する研究やフランス・リールにおける資料調査と19世紀の欧州東洋学と東アジアの学術との比較研究があり、基礎的な研究に成果を挙げつつある。

2：情報発信については、国内外においてワークショップ・シンポジウム・講演会を活発に開催してきた。こうした活動を通して「近代日本漢学」に関する本学の取り組みの認知度が近年確実に向上してきたことは、国内外の学会からの招聘などの増加に如実に現れている。

研究基盤となる資料収集の進捗にも特筆すべきものがある。購入資料（まとめたものとしては加藤復斎関係資料・紀伝道桑家資料・孝経コレクション・千字文コレクションなど）の他に、寄贈資料として芳野金陵資料、大沼枕山資料、加藤天淵資料、山田準資料、佐久間峻斎資料等があり、活発な資料整理と研究を行うとともに、補修・資料撮影を行い画像データベースの公開準備を進めた。また整理作業の進捗した資料に関しては、資料展示を行うとともに、その図録を刊行した。

研究成果の公開としては、研究基盤となる基礎資料の整理公刊に成果をあげ、『近代日本漢学資料叢書』『近代日本漢籍影印叢書』は関連分野の研究者から高い評価を得ている。野間文史と稻田篤信は従来ほとんど研究がないものの近代漢学の起点として重要な寛政異学禁の時期の儒者平賀中南の研究成果をまとめた。町泉寿郎は日本漢文学研究の先駆者柿村重松の遺稿を整理公刊した。また加藤國安は漢文教科書資料集と正岡子規の祖父大原觀山に関する基礎研究をまとめた。王宝平は彌大な明治期筆談資料について基礎資料を整理公刊した。

3：人材育成に関しては、27年度、28年度、29年度に採用した研究員は、それぞれその後、研究職のポストを得て国内外で研究活動に従事している。

研究支援者・研究助手による研究成果も格段に増加している。特に27・28・29年度に研究助手としてプログラムに参画していた者が、29年度に新設された博士（日本漢学）の学位を取得したことは、特筆すべき成果である。

海外の日本学研究者向けの日本漢学セミナーとしては、毎年8月に浙江省で開催している日本語教員向けのものや、その他、欧州や中国で適時開催しているものがあり、こうした機会を通して本学に留学する日本漢学を専攻する大学院生はプログラム着手後に確実に増加した。これは本学における日本漢学研究の拠点形成上、重要な成果である。本プロジェクトの研究交流を契機として、大学間の交流協定の締結に至った例（釜山大学、魯東大学）や研究プロジェクト間の覚書を締結した例があり（成均館大学）、本プロジェクトは大学全体の教育研究の国際化に確実に寄与している。

SRF 学術研究班 研究計画及び進捗状況・成果

SRF 学術研究班主任・文学部教授 牧角悦子

学術研究班は、江戸後期の学問の蓄積が近代において如何様に変容したのか、何が引き継がれ何が途絶えたのかについて、主に中国学の基礎の上にそれぞれの具象を解明することを目指している。メンバーは、牧角悦子・野間文史・稻田篤信・高山節也・田中正樹・小方伴子・町泉寿郎・合山林太郎（平成 27 年 12 月～）の 8 名。

【平成 27 年度】

野間・稻田は安芸三原の儒者平賀中南について、その事跡と業績の発掘整理を行った。国会図書館・都立中央図書館等に分散する平賀の膨大な資料の収集を経て、稻田は『世説新語補』、野間は『春秋稽古』を対象に、漢籍の日本的受容と経学の日本の展開について解明。高山は日本の漢籍資料の調査及び報告書作成を継続。小方は江戸期の『国語』のテキストの分析を通じて、日中の経学の繋がりを具体的に検証。田中は江戸——明治期の三島中洲の経書解釈、就中『易』へのアプローチに見える伝統的学問の継承と近代的対応の特徴を探求している。牧角・町は山田方谷・三島中洲研究会を定期的に開催し（各月）、方谷の漢文文献の訳注作業、及び三島中洲とその時代に関する研究報告会を継続中。対外的な成果としては、1 月 23 日、岡山県高梁市における講演会（「山田方谷の軌跡（～奇跡～）」）に招かれて、牧角「山田方谷と三島中洲——近代を準備した備中の漢学者——」・町「備中の漢学者とその史跡」の題目で講演、また翌 24 日には倉敷市公民館において、第 112 回三島中洲研究会を開催、岡山の高梁・倉敷他の関係者と研究を通じた交流を深めた。

【平成 28 年度】

野間・稻田の研究成果が平賀中南『春秋集箋』の復刻に結晶した。江戸期の戯作作家として知られる中南の、漢学者としての業績については、これまであまり知られていなかつた。しかし荻生徂徠の系統に係りながら、独特の經典解釈を見せる『春秋集箋』は、中南の優れた業績としても、また江戸期の日本の経学の特性と水準を示すものとしても貴重な文献である。江戸学の稻田教授と中国学（経学）の野間教授の共同作業から生まれたこの校定作業は、本学の本事業でしか成し得ない貴重な成果として長く価値を有するものとなるであろう。なお、中南に関しては、その詳細な伝記資料として、澤井常四郎の『経学者平賀晋民先生』もまた併せて復刻され（近代日本漢学資料叢書第一冊）、これらの成果を中南の出身地であり、市立図書館に貴重な資料を保管する広島県三原市において 3 月 18 日に講演会を開催した。

その外の活動としては、①国内学のシンポジウム開催、②資料の収集整理、③研究会の開催の三方面において、それぞれまとめた成果を得ることができた。

まずシンポジウムについて言えば、

- ①韓国の松島で開催された国際日本学協議会にパネル参加、「近代漢学における東アジア共同研究の可能性——」と題してメンバーによる報告・コメントを供し、議論を行った。
- ②中国の上海師範大学において「漢文文献研究の現在」と題するワークショップを開き、文献研究を中心テーマに据えた情報交換と学術交流を行った。
- ③フランスのパリ第七大学において「東アジアの近代化と漢学」と題した国際シンポジウムを主催、メンバーによる報告・コメント及び議論を行った。

特に上海師範大学で開催したシンポジウムでは、特筆すべき成果があった。中国は近年、古典研究に対して国家的支援体制をとっている。古典研究、文献の整理及び出版に対して多額の補助金を投入しているのである。日本においてはもはや死学の危機に瀕している文献学が、中国では最もホットな学問なのである。今回のシンポジウムは、規模は大きいものではなかったが、中国における最もレベルの高い文献学の研究者が顔を揃えただけでなく、我々日本人の、日本における文献学の成果に食い入るような視線と高い評価を示してくれた。とりわけ、SRFの研究支援者である清水信子氏の、日本における『史記』の文献整理については、その緻密な整理分析に対して大きな称賛が寄せられた。

研究会の開催については、山田方谷研究会・三島中洲研究会、および日本漢学特論の講座を、ほぼ各月或いは隔月の割合で開催した。特に山田方谷研究会においては、方谷晩年の陽明思想の展開を理解する上で重要な「孟子養氣章或問図説」の解説にかかり、訳注作業を開始した。山田方谷は陽明学者だというレッテルと貼られることが多いが、一般にそれは非常に印象的かつ曖昧な使われ方をする。方谷自身は最晩年に至るまで、陽明学に安易に関わることを子弟に厳しく戒めている。その最晩年の閑谷学校における講義の筆記録である「孟子養氣章或問図説」を読み解くことによってしか、方谷の陽明思想は語ることは出来ないであろう。詳細な訳注と解説を付す予定のこの作業は、今後も定期的に継続し、有る程度の分量に至った時点での公開を目指したい。

【平成29年度】

まず学術シンポジウムとして、

- ①6月25日 易学シンポジウムにおいて、牧角・町・田中が易学を近代に生かす知恵についてそれぞれ学術的視点から報告した。
- ②9月30日 中国大連大学において、江藤・牧角・町が近代と漢学および教育についてパネル発表を行った。
- ③11月5日 北京第二外国语大学において学術交流会を開催、江藤・牧角・町と研究員の商がそれぞれ研究報告を行った。
- ④11月7日 魯東大学にて「儒学と現代」をテーマとする国際学会を、魯東大学主宰、本事業共催で開催。牧角・江藤・町・商が研究報告。

また、研究会の開催については、前年度に引き続き「山田方谷研究会」「三島中洲研究会」を開催。山田方谷研究会においては、方谷晩年の「孟子養氣章或問図説」の輪読を行い、また三島中洲研究会においては、研究成果の報告を行った。これらの成果は、『三島中洲研究』などの雑誌で公表する予定である。

SRF 教学研究班 研究計画及び進捗状況・成果

SRF 教学研究班主任・文学部教授 江藤 茂博

【平成 27 年度】

教学研究班の研究課題は、近代日本の高等中等教育における漢文教育の実証的調査と分析を中心としている。

平成 27 年度は、近代日本の漢学教育の実証的な調査を中心に、近代教育に先行する漢学塾とその跡の調査、漢文教育関連の資料収集と分析を行った。江戸後期からの全国の漢学塾の所在を『日本教育史資料』及び各県の教育史をもとに一部リスト化し、それが現在どのような観光資源や教育資源として活用されているのかを調査した。

また、近代日本の文芸作品における漢文教師の表象について、SRFにおいて大学院生との共同報告（江藤茂博・森和磨「近代日本の教育・文化と漢学塾」2016 年 3 月 22 日、二松學舍大学）を行った。

次に、研究対象の時期区分ごとの成果を報告する。

明治期に関しては、漢文教育関連の資料収集と調査報告として、『明治漢文教科書集成』第Ⅲ期及び『解説・総索引』を刊行した（編集・解説、加藤国安、不二出版、2015 年 9 月）。内容は女子漢文・師範漢文教育史と教科書史を柱として、これに収斂期の中等漢文教育を加えて論じたものである。また、『明治漢文教科書集成』全Ⅲ期に採録された漢籍のうち、本学未所蔵のリストを作成した。なお本学附属図書館・COE との重複調査の照合表、及び国会図書館の所蔵状況も併せて添付し、簡便に利用できるようにした。

明治・大正期に関しては、明治・大正期の文部省教員検定試験等の漢文問題（国会図書館蔵デジタルコレクション）を年代順に並べ、a. 諸官立入試編、b. 教員検定試験編、c. 解説編に分類し、一覧表を作成した。

昭和戦前期から戦後期に関しては、戦前から昭和 20 年代の雑誌「螢雪時代」に掲載された漢文教育関連記事を検証することで、戦時下から戦後にかけて漢文教育の変化の把握に努めた。

以上の成果のなかで、漢文教育全体の流れを高等教育機関に限って概観したことは、中国・安徽大学での、近代日本の高等教育機関における中国学教育研究の歴史についての講演（江藤茂博「日本の近代高等教育における中国学の展開と現在」、2015 年 10 月 17 日）として結実した。

上記以外の発表・講演類の成果としては、江藤が「映像物語空間のなかの漢字文化」（2015 年 10 月 30 日、浙江工商大学東方語言文化学院）と題した講演を行った。また国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学 一日本と台湾近代教育制度の基盤となったもの」において、江藤が「方法としての漢学者・漢学塾」（2016 年 3 月 29 日、福華国際文教会館）を発表した。

【平成 28 年度】

平成 27 年度にリスト化した漢学塾データをもとに、現地調査および関連史資料の収集をいくつか行った。具体的には、福岡県みやま市における「吉井塾」（壇秋芳）、「龍山第一書院」（西田幹治郎）の現地調査および写真撮影、また瀬高町の「みやま市立図書館」において地域資料を閲覧・複写することができた。また、博多市内の「興志塾（人参畠塾）」跡（高場乱）の探訪と碑文の写真撮影、「福岡県立図書館」において関連郷土資料の閲覧・複写を行った。

次に、平成 28 年度より、全国 250 校の中学校・高等学校（一部大学含む）へのアンケート調査を新たに実施した。この 250 校は、その前身を藩校や私塾などに持つ教育機関として選定したものとなる。アンケート内容は、各学校史の有無、各校成立期の関係者の資料の有無、明治・大正・戦前期の古い教科書や漢籍その他の古典籍資料の有無、明治・大正・戦前期の旧教員（特に漢文担当教員）に関する情報などを設問項目とした。回答率は凡そ 3 割、そのうち 43 校程度の教育機関から学校史その他資料の提供を受けることができた。具体的な調査結果については、平崎真右が「教学研究班 アンケート調査：経過報告」（『雙松通訊』vol. 22、二松学舎大学東アジア学術総合研究所・日本漢文教育研究推進室実施委員会、2017 年 4 月）としてまとめている。またアンケート調査の回答校のうち、和洋九段女子中学校高等学校、フェリス女学院資料室、桃山学院史料室、筑紫女学園中学高等学校、広島女学院歴史資料館への訪問調査を実施し、各校の所蔵する学校史関連資料その他の閲覧、撮影、複写などを行った。

次に、平成 27 年度に引きつづき雑誌「螢雪時代」の資料収集を実施した。対象年度の既刊分を 30 冊程度収集することができ、「漢文」関連記事の抽出とデータ化を一部リスト化した。

発表・講演類の成果としては、江藤が「近代文化の基盤としての身体性と物語一序として」（2016 年 6 月 30 日、二松學舎大学）の発表を行い、東アジア日本研究者協議会第 1 回国際学術大会において、江藤が「近代漢学における東アジア共同研究の可能性 —二松学舎大学の取り組み—」（2016 年 12 月 1 日、松島コンベンシア [韓国・仁川]）の報告を行った。

【平成 29 年度】

平成 28 年度より実施している学校史関連調査につき、平成 29 年度は成田高等学校・付属中学校、東北学院史資料センター、國士館史資料室の訪問調査を実施した。各校の所蔵する（戦前期の）教科書類、教員の履歴書、学校史の元史資料などの閲覧および写真撮影、目録作成のほか、人的ネットワークの構築も視野に入れた活動を行うことができた。このうち國士館史資料室の訪問調査は、平崎真右「國士館の設立とその時代—私塾、大正、活学の系譜—」（『國士館史研究年報 楓原』第 9 号、2018 年 3 月）として成果をまとめた。

また訪問調査が機縁となり、他大学および他学会の研究会へと参加することもできた（2017 年 10 月 11～13 日、愛知大学で開催された「全国大学史資料協議会 2017 年度総会な

らびに全国研究会」のうち、12日（木）の研究会に平崎が参加）。該会への参加により、アンケート回答校との交流を深め、また新しく関係を持った教育機関もあり、人的ネットワークの形成を進めるに繋がった。

次に、発表・報告・書籍類の成果を報告する。

- ① 江藤が「日本の文学部形成—「文学概論」を事例に」（「文学部の現在—東アジアの高等教育 文学・外国語学・古典学／儒学」（二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・文学部共同国際シンポジウム、2017年7月8日、二松學舎大学）と題した報告を行った。当該シンポジウムは、前年度に開催された「たたかう文学部のリアル」（二松學舎大学文学部主催シンポジウム、2016年10月15日、二松學舎大学）の東アジア版に位置づけられる。
- ② また上記シンポジウムとの同日開催である「次世代研究発表会」において、平崎真右が「近代「日本」の「表記」をめぐって—「漢字」を超克する志向と文脈」と題した報告を行った。
- ③ 平崎が「教学研究班による訪問調査の事例報告—成田高等学校を中心に」（「漢学者記念館会議」二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業・早稲田大学中国古籍文化研究所共催、2017年7月29日、二松學舎大学）と題した報告を行った。同報告は、第2部「漢学者記念館の現状と課題」のうち、「SRF事業による漢学塾関連資料調査の報告」におけるものだが、平成28年度より実施している学校史調査の成果の一つとなる。
- ④ 江藤が「「文学」の近代化—文学概念と芥川龍之介の作品から」（1900年前後）」（「日本近代の「漢学」教育・研究をめぐって—制度・研究・文芸」二松學舎大学 SRF・大連大学共催、2017年9月16日、大連大学[中国]）と題した発表を行った。
- ⑤ 江藤が「近代日本の漢学と文学・教育・学問—教育を中心に—」（2017年2月28日、ボルドー・モンテーニュ大学[フランス]）と題した発表を行った。
- ⑥ 書籍としては、江藤茂博・牧角悦子・町泉寿郎・秋葉利治・Peng, Pamela Hsiaowen『『論語の学校』時習編（対訳付き）』（研文社、2018年3月）を刊行した。

【平成 27 年度】

近代文学研究班の研究課題は、「文學者の教養形成における漢学の受容——夏目漱石を中心として」である。近代の作家の教養形成は、従来西洋文化との関わりのみで論じられがちであった。しかし、日本の近代文学の特質を把握するためには、近世までに培われた漢学が作家たちにどう受容され、西洋の思想といかに接合したのかを追うことが不可欠であろう。

文學者における漢学の影響を考察する上で一つの典型と言える存在が夏目漱石である。漢文を好み、漢学塾二松學舎で学びながら、その後英文学研究に転じた漱石は、価値転換の時代の葛藤を体現した人物であり、研究題目の主対象とするにふさわしい。研究班ではほかに、大西巨人、依田学海、三島中洲、近世末期から近代初期にかけての漢詩人などを対象とする。彼らの教養形成における漢学の受容を個別に実証的に解明しながら、作品のありようをとらえ直すこと、また個々の作家の検証を蓄積していくことで近代文学の展開を再考することが目的となる。

夏目漱石については、山口直孝が『漱石全集』における漢籍への言及例を収集した。また、二松學舎大学が所蔵する草稿や書についての調査を実施した。

大西巨人については、山口直孝が中心となって蔵書調査を行い、9,000 冊を超える書籍、雑誌類における巨人の痕跡を確認する作業を進め、全体の約 7 割の調査を終えた。調査の成果を踏まえ、山口は論考を発表した。また、田中正樹がワークショップ「大西巨人の現在」で『神聖喜劇』と漢詩文との関わりについて発表した。

依田学海については、楊爽が中国における作品紹介のありようについて、また、『聊齋志異』の享受について論考をまとめた。

三島中洲については、町泉寿郎・牧角悦子が山田方谷との関係について発表を行った。中洲の人脈は広範であり、それを追跡することは近代文学の研究であると同時に、近代の漢学教育の研究ともなり、江藤・町・牧角が担当する教学研究班の成果に連なっていくことになる。平成 28 年 3 月 13 日に開催された SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」第 2 日目のシンポジウム 3 「漢文教育・漢文教科書の諸問題」は近代文学研究班と教学研究班との共同の成果と言うことができる。

平成 27 年度は第一年目で研究の基盤となる調査が主たる活動となつたが、着実に作業を進め、体制を整えることができたと思われる。

【平成 28 年度】

研究課題は、前年度と同じく、「文学者の教養形成における漢学の受容——夏目漱石を中心として」である。

漱石については、平成 28 年 5 月 26 日に野網摩利子によるテーブル・スピーチを、また、平成 29 年 3 月 11 日・12 日にシンポジウム「漢文脈の漱石」を開催した。「漢文脈の漱石」は、第 1 日目の齋藤希史の講演および北川扶生子・合山林太郎・牧角悦子によるパネルディスカッション、第 2 日に阿部和正・伊藤かおり・木戸浦豊和・藤本晃嗣らの研究発表によって構成され、漱石における漢学受容をめぐる研究の最前線を提示しながら共通の認識を形成する目的で実施したものである。ほかに、山口直孝が研究成果を講演で発表し、阿部和正が口頭発表を行い、論考をまとめた。

大西巨人については前年度に引き続いて蔵書調査を行い、ほぼ作業を完了することができた。

依田学海については、楊爽が引き続き取り組み、漢文体小説集『譚海』の典拠を突き止め、比較の上学海作品の近代的性格を論じる考察などをまとめた。

三島中洲については、江藤茂博・町泉寿郎・牧角悦子らが岡山や長崎でゆかりの人物の調査を行い、それを踏まえて山田方谷や渋沢栄一との関係を論じた。

野口寧斎を始めとする漢詩人の人脈や作品の傾向については、合山林太郎が資料調査を踏まえて、複数の論考を発表した。

上記のほかに、江藤茂博が芥川龍之介について、平崎真右が田岡嶺雲について、論考を発表している。

第二年目となる平成 28 年度は、基礎的調査の進行に加えて、それらが個々の文学者の創作の背景や内実を問う考察として結実する進展が見られた。夏目漱石に関するシンポジウムも開催され、活発な活動を行うことができたと言えよう。

【平成 29 年度】

研究課題は、引き続き、「文学者の教養形成における漢学の受容——夏目漱石を中心として」である。

夏目漱石については、阿部和正・山口直孝が東北大学附属図書館の漱石文庫の調査を実施、特に漢籍類における漱石の痕跡を調査した。また、二松學舎大学

が所蔵する夏目漱石の正岡子規宛書簡の調査も行った。それらの作業を通じて、漱石の漢学受容が近代的な教育制度の下で行われたことを確認することができた。これらの調査、及び前年度実施のテーブル・スピーチ、シンポジウムの成果を、成果報告書『漢文脈の漱石』（2018年3月）として刊行した。『漢文脈の漱石』には、も収められている。山口はほかに『漱石辞典』（翰林書房、平成29年5月）の項目執筆を担当、また、阿部は、漱石と漢詩文との関わりをめぐる研究状況についてまとめ、『野分』について口頭発表を行った。

大西巨人については、蔵書調査の成果を山口直孝が口頭発表で披露した。山口はまた、巨人の書誌的な調査も進め、石橋正孝・橋本あゆみと共同で単行本未収録の批評を集成して一書にまとめた（『歴史の総合者として—大西巨人未刊行批評集成』幻戯書房、2017年11月）。蔵書調査に携わったメンバーを中心に論文集『大西巨人—文学と革命』（翰林書房）が2018年3月に刊行された。

依田学海については、楊爽が研究を続け、従来知られていなかった別筆名の白話体小説を発掘するなどの成果を挙げた。博士学位請求論文としてまとめられた楊爽の研究成果は、学海および漢文体小説という未開拓の領域において画期的であり、近代文学生成期における漢学の役割を考える上でも重要な意義を持つ。

野口寧斎については、合山林太郎が日中交流史の観点を交えた考察を発表した。

三島中洲については、山口直孝が新潟県立図書館の郷土文庫において中洲関係の書籍の調査を行った。ほかに山口直孝が白樺派の作家について考察をまとめている。

研究第3年目となる本年度は、個々の口頭発表や論文に加えて、成果報告書や論集を刊行した。研究成果をまとめたことからも、近代文学研究班の活動は計画に即した、順調なものであったと概括できるであろう。近代の文学者における漢学の受容は、ほとんど未開拓の領域であるが、実証的に空白を埋め、今後の研究の方向性を定める上で一定の役割を果たすことができたのではないかと思われる。

SRF 東アジア研究班 研究計画及び進捗状況・成果

SRF 東アジア研究班主任・文学部教授 町 泉寿郎

【平成 27 年度】

東アジア研究班では、町泉寿郎が中心となって 19 世紀東アジアの医療文化史に関する事例研究（岡山の在村医中島家資料の調査研究、漢蘭折衷医学に関する資料調査）を行った。清水信子は主に整理に従事し、成果を発表した。

また、筆談録研究に関しては、新たに寄贈された芳野金陵資料の中から従来全くその存在が知られていない清国公使館員（何如璋・黃遵憲・廖錫恩・沈文熾）と明治文人（芳野金陵・重野成斎・川田甕江・信夫恕軒・塩谷青山・青山延寿・大島堯田ら）らの筆談録が出現したので、町泉寿郎がその整理に当たった。

川邊雄大は、東西本願寺や大谷光瑞の東アジア地域における活動に着目して成果を発表した。町泉寿郎と川邊雄大が第 7 回東アジア文化交渉学会（2015.5.9～10、神奈川県大成町）に参加して研究を報告するとともに、参加者と交流を深めた。

【平成 28 年度】

19 世紀東アジアの医療文化史に関しては、ヴィグル・マティアス連携者による研究報告会「幕末期の医学の身体観—漢語と蘭語」を実施した。また町泉寿郎は、日本医史学会第 117 回学術大会において招待講演「江戸後期の福山藩考証医学—伊澤蘭軒とその学統」を行い、一ノ関において市民講座「『医經千文』からみた芦東山の医学」を行った。

台湾・韓国の漢文教育に関しては、朴暎美が研究成果を発表し、また町泉寿郎と川邊雄大は内地・外地の漢文教科書に関する共同研究のための予備的な活動を行った。

資料調査としては、町泉寿郎が漢学に造詣の深かった軍人（橋周太・広瀬武夫）、実業家（高取伊好・梅屋庄吉・野崎武吉郎・田辺為三郎）、朝鮮研究の先駆者鮎貝房之進とその兄落合直文について実地調査を行った。

【平成 29 年度】

19 世紀東アジアの医療文化史に関しては、前近代と近代の学問の断絶に着目して、「易学の展開と近代」と題したシンポジウムを企画し、町泉寿郎は漢学文化の変容とともに衰退したものとして易と漢方について報告した。また、町泉寿郎は台湾・佛光大学における東亜漢学国際学術研討会から招聘されて「日本漢学に関するいくつかの特徴—主に医学史の視点から」を報告した。

筆談録研究に関しては、町泉寿郎が浙江大学の王勇教授の東亜筆談研究のプロジェクトと呼応して研究を進め、浙江大学においてシンポジウムを共催し、「芳野金陵及びその門人知友と清国公使館員による新出の筆談録」を報告した。王宝平連携者が大河内輝聲が残した厖大な筆談録

(大河内文書)の全貌を初めて影印出版した。

資料調査としては、町泉寿郎が明治初期にその領有と経営が進められた小笠原諸島において、「開拓小笠原島碑」に関する資料調査を行い、論文を発表した。

資料

1 主催事業

1-1 シンポジウム・学術会議・ワークショップ

シンポジウム

年度	開催日	主催	会場	テーマ	参加者	詳細頁
27	27. 10. 30	SRF・浙江工商大学	浙江工商大学	国際シンポジウム「漢字文化とコミュニケーション 一筆談・現代アート・映像」	50	24
	28. 3. 12-13	SRF	倉敷市立美術館講堂	国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育 一備中倉敷から東アジアの近代教育を考える」	140	25
	28. 3. 29-30	SRF・台湾大学・台湾師範大学	台湾大学 台湾師範大学	国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学 一日本と台湾 近代教育制度の基盤となったもの」	21	28
28	28. 12. 1	東アジア日本研究者協議会(SRFパネル企画・運営)	松島コンベンシア	第1回国際学術大会	15	
	28. 12. 25	SRF・上海師範大学 中国古典学研究中心	上海師範大学	国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と文献研究」	15	29
	29. 1. 21	SRF・公益財団法人 渋沢栄一記念財団	本学3号館	シンポジウム「論語」と「算盤」が出会う東アジアの近代 渋沢栄一と三島中洲	40	30
	29. 1. 31	SRF・公益財団法人 渋沢栄一記念財団	倉敷市立美術館3階講堂	シンポジウム「論語」と「算盤」が出会う東アジアの近代 渋沢栄一と三島中洲	60	30
	29. 2. 11	SRF・パリ第7大学	パリ第7大学	国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」	20	31
	29. 3. 11-12	SRF・本学文学部	本学1号館	国際シンポジウム「漢文脈の漱石」	延べ120	32
29	29. 6. 25	公益社団法人 日本易学連合会(SRF共催)	本学中洲記念講堂	シンポジウム「易学の展開と近代 易を現代に生かす」	160	33
	29. 7. 8	SRF・本学文学部	本学1号館	国際シンポジウム「文学部の現在 東アジアの高等教育 文学・外国語学・古典学/儒学」	70	34
	29. 10. 28-29	東アジア日本研究者協議会(SRFパネル企画・運営)	南開大学	第2回国際学術大会	300	
	29. 11. 5	SRF・北京第二外国语大学・ 釜山大学校	北京第二外国语大学	国際シンポジウム「映像」「教科書」「漢字」—メディアと 文学・思想	30	
	29. 11. 7	SRF・魯東大学	魯東大学	国際シンポジウム「儒学の現代性と東アジア文化圏の再構築」		
	29. 11. 18-19	浙江大学(SRF共催)	浙江大学	シンポジウム「東アジア筆談研究」		
	30. 1. 29	SRF・ 公益財団法人 渋沢栄一記念財団	新溪園(倉敷市)	シンポジウム「近代岡山における実業家と学術・文化・公益事業」	40	35

学術会議

年度	開催日	主催	会場	会議名	参加者	詳細頁
29	29. 7. 29	SRF・早稲田大学中国古籍文化研究所	本学1号館	漢学者記念館会議	60	36
	29. 12. 9	台湾大学 (SRF開催協力)	台湾大学	第12回台湾大学日本語文創新 国際学術研討会		

ワークショップ

年度	開催日	主催	会場	報告者	参加者	詳細頁
27	28. 2. 12	リール第3大学	リール第3大学	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎・牧角 悅子		
	28. 2. 15	ライデン大学	ライデン大学	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎・牧角 悅子		
29	30. 2. 28	モンテニュ大学	モンテニュ大学	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎・牧角 悅子・江藤 茂博 支援事業連携者 ヴィグル・マティアス	10	

名 称	SRF国際シンポジウム
テー マ	漢字文化とコミュニケーション 一筆談・現代アート・映像
主 催	二松學舎大学SRF
共 催	浙江工商大学東方語言文化学院
日 時	平成27年10月30日（金） 15：00～17：00
会 場	浙江工商大学東方語言文化学院
プロ グラム	<p>報告①「筆談 幕末遣老芳野金陵と清国公使館員の筆談録」 町 泉寿郎（二松學舎大学教授）</p> <p>報告②「現代アート 現代日本のデジタル環境下における漢字文化の変容ゲーム」 松本 健太郎（二松學舎大学准教授）</p> <p>報告③「映像 物語空間のなかの漢字文化」 江藤 茂博（二松學舎大学教授）</p> <p>司会進行 松本 健太郎</p>

近代東アジアの漢学と教育

Education and Kanbun Studies in Modern East Asia

—備中倉敷から東アジアの近代教育を考える—

二松学舎大学を中心とした、日本・中国・台湾・韓国・オランダ・フランスの大学教授を講師に迎え、19~20世紀東アジア諸地域の近代化過程における伝統的な学術文化の再編を、教育と漢学を軸に問い合わせる。日本の幕末明治期、備中地域は山田方谷・三島中洲ら著名な漢学者を輩出した。本シンポジウムでは、国際的な広がりの中で漢学および漢学者が近代化に果たした役割を、学術・教育制度・教科書・宗教・実業など多角的に討議する。

場所 倉敷市立美術館 講堂

岡山県倉敷市中央2丁目6-1

定員
各日200名
入場無料・予約不要

1日目

平成28年 3月12日 土 11:00~16:30

(受付10:30~)

- 基調講演Ⅰ テキストの身体化
- 共同討議 日本語教育と漢字・漢文
- 共同討議 総括講演 筆談と東アジアの文化交流
- シンポジウム1 近代化と儒教(文明翻訳の成功と失敗 ほか)

2日目

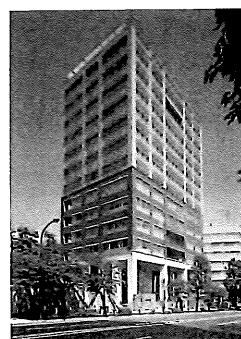
平成28年 3月13日 日 9:30~15:30

(受付9:00~)

- 基調講演Ⅱ 三島中洲と清国留学生
- シンポジウム2 備中の近代化と漢学(山田方谷と閑谷学校 ほか)
- シンポジウム3 漢文教育・漢文教科書の諸問題
(明治漢文教科書に見る備中人の漢学 ほか)

二松学舎大学のあゆみ

二松学舎は明治10年(1877)10月10日に、三島中洲(現倉敷市中島出身)によって現在の東京都千代田区三番町に漢学塾として創始された。「東洋の精神による人格の陶冶」と「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成スル」を建学の精神に掲げている。明治前期には東京府下の三大塾の一つと称され、昭和3年(1928)に国語・漢文の中等教員養成のための専門学校に、昭和24年(1949)に新制大学となり、平成29年(2017)に創立140年を迎える。開学以来の漢学塾の伝統を継承し、日本漢学の教育と研究にも重点的に取り組んでいる。



常設資料展示

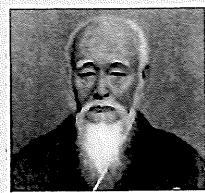
「山田方谷・三島中洲とその交友群像」

二松学舎大学が所蔵する山田方谷、三島中洲の資料を展示します。また、大学での研究成果や、山田方谷、三島中洲と関わりの深い人物などの資料を展示します。



山田 方谷
(1805-1877)

現高梁市に出生。神童の評判が高く、江戸で佐藤一斎に陽明学を学び佐久間象山らと研鑽。備中松山藩儒となり、藩政改革に成功。「至誠勤恒」を旨として民を思いやる政治を行い、備中地域の発展に貢献。その家塾には全国から入門者が集まり、高遠な見識は維新の指導者にも影響を与えた。晩年は閑谷学校再興にも協力した。



三島 中洲
(1831-1919)

現倉敷市に出生。山田方谷に学んで頭角を顯わし、同門の川田甕江とともに方谷を補佐して藩政を支えた。明治政府に出仕し裁判官や民法編纂に従事。また東京大学で漢文を講じ、晩年は大正天皇に漢学や漢詩を教えた。また第八十六国立銀行(現中国銀行)を設立し、二松学舎で多くの備中備前出身者を教育し、地域の近代化に貢献。

主催

二松学舎大学

倉敷市、「山田方谷の軌跡(～奇跡～)」実行委員会

お問い合わせ先

倉敷市観光課

086-426-3411

国際シンポジウム

テーマ：近代東アジアの漢学と教育

—備中倉敷から東アジアの近代教育を考える—

開催趣旨 「19～20世紀東アジア諸地域の近代化過程における伝統的な学術文化の変容と再編を、教育と漢学を軸に問い合わせ直す。日本の幕末明治期、備中地域は山田方谷・三島中洲ら著名な漢学者を輩出しが、各国・各地域の近代化に漢学および漢学者が果たした役割を、学術研究・教育制度・教科書・宗教・実業など多角的に、国際的な広がりのなかで考える。」

期 間：2016年3月12日（土）～3月13日（日）
場 所：岡山県倉敷市 倉敷市立美術館 講堂
主 催：二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、倉敷市、
「山田方谷の軌跡（～奇跡～）」実行委員会

二松學舎大学「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

MEXT-Supported Program for the Strategic Research Foundation at Private Universities 略称 S R F
プログラムタイトル「近代日本の「知」の形成と漢学」
(期間：2015～2019年度 研究代表者：町 泉寿郎)

研究概要：本プロジェクトに言う「漢学」は広く漢文による学習の意味である。一般に、「漢学」は19世紀を通して「洋学」に席を譲って衰退したと考えられがちであるが、実は近代教育制度の整備とともに、学術面では中国学・東洋学に脱皮し、教学面では「漢文」が「国語」と並んで言語と道徳に関する教学として再編されて浸透した。更にはこの学術・教学体制が東アジアを中心とした諸国にも影響を及ぼした。「漢学」が学術と教学に解体・再編された過程を、経時的、多角的に考察することにより、「漢学」から日本、および東アジアの近代化の特色や問題点を探る。

○学術研究班 ○教学研究 ○近代文学研究班 ○東アジア研究班

- 1 國際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進
国内外機関との研究連携、国際会議・シンポジウム・共同研究の実施、国内・海外調査の実施
- 2 日本漢学に関する各種の情報発信
近世近代の日本漢学資料を中心とした各種データベースの拡充、各種研究成果の刊行
- 3 日本漢学分野の研究者養成
国内外の日本漢学分野の研究者の研究支援に関する各種事業

3月12日（土）11:00-16:30

11:00-11:15 開会挨拶：菅原 淳子（二松學舎大学学長）

趣旨説明：町 泉寿郎（二松學舎大学 教授）

11:15-12:00 基調講演 I

講演者：辻本 雅史（台湾大学 教授）

「テキストの身体化—日本近世儒学学習と素読—」

13:00-13:20 調印式

13:20-14:50 共同討議：日本語教育と漢字・漢文（発表時間 15 分、質疑 20 分）

司 会：江藤 茂博（二松學舎大学 教授）

発表者：木村 義之（慶應義塾大学 教授）、王 勇萍（安徽大学 准教授）、

ヴィグル マティアス（浙江大学 講師）

総括講演：劉 雨珍（中国南開大学外国語学院 教授）（発表時間 25 分）

「筆談と東アジアの文化交流—清朝初代駐日公使館員の在日筆談資料を中心に」

14:55-16:30 シンポジウム 1：近代化と儒教（発表時間 20 分、質疑 15 分）

司 会：田中 正樹（二松學舎大学 教授）

発表者：藍 弘岳（國立交通大学（台湾）准教授）

「経学・古代史・「国体」——会沢正志斎の史論と政治思想——」

鄭 出憲（釜山大学 漢文学科 教授）

「文明翻訳の成功と失敗—朱子の小学とパクゼヒヨンの海東俗小学」

徳重 公美

「荻生徂徠の思想における「聖人」の位置づけと丸山真男の「近代」」

木村 昌人（公益財団法人渋沢栄一記念財団 主幹（研究））

「近代実業家と漢学—渋沢栄一を中心として」

3月13日（日）9:30-15:30

9:30-10:15 基調講演 II

講演者：王 宝平（中国浙江工商大学東方語言文化学院 教授）

「三島中洲と明治前期に来日した中国人」

10:25-12:00 シンポジウム 2：備中の近代化と漢学（発表時間 20 分、質疑 15 分）

司 会：町 泉寿郎（二松學舎大学 教授）

発表者：牧角 悅子（二松學舎大学 教授）

「山田方谷と閑谷学校」

呂 順長（浙江工商大学東方語言文化学院 教授）

「漢学者山本憲の岡山牛窓移住後の活動」

清水 信子（二松學舎大学 講師）

「江戸後期の備中・備前の医家と漢学」

川邊 雄大（二松學舎大学 講師）

「白岩龍平とその周縁」

13:00-14:35 シンポジウム 3：漢文教育・漢文教科書の諸問題（発表時間 20 分、質疑 15 分）

司 会：山口 直孝（二松學舎大学 教授）

発表者：加藤 國安（二松學舎大学 特命教授）

「明治漢文教科書に見る備中人の漢学」

朴 瞠美（成均館大學校 東亞細亞學術院 研究教授）

「日治期朝鮮の漢文教科書における日本漢学の様子」

合山 林太郎（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 准教授）

「近代の漢詩詞華集と教育との関係」

宮本 雅也（二松學舎大学 大学院生）

「文検「漢文科」を概観する—明治 18 年から大正 10 年まで」

14:40-15:10 総括：江藤 茂博、牧角 悅子、町 泉寿郎、山口 直孝（二松學舎大学 教授）

15:15-15:30 閉会の辞：江藤 茂博（二松學舎大学 教授）

（敬称略・順不同）

名 称	SRF国際シンポジウム
テー マ	東アジアの教育制度のなりたちと漢学—日本と台湾 近代教育制度の基盤となったもの
主 催	二松學舎大学SRF
共 催	台湾大学・台湾師範大学
開催趣旨	近代的な教育制度が確立する前、日本では藩校・漢学塾・寺子屋などでの教育が、各社会階層間の交流も含めながら、合理的な人材教育の役割を果たしていた。ここでは、日本の江戸末・明治維新期の近代的な教育制度確立までの状況やプロセスと台湾のそれらとを比較しながら、さらに漢学が果たした役割を考察したいと思う。
日 時	①平成28年3月29日（火） 14：30～17：00 ②3月30日（水） 15：00～18：00
会 場	①福華国際文教会館（台湾大学施設） ②台湾師範大学東アジア学科会議室
プログラム	<p>報告①「方法としての漢学者・漢学塾」 江藤 茂博（二松学舎大学教授）</p> <p>報告②「戦時下台北高校生文芸と明治修養主義」 津田 勤子（台湾師範大学院生）</p> <p>報告③「学問の共通言語としてのラテン語と漢文—何が違ったのかー」 Vigouroux Mathias（浙江大学講師）</p> <p>報告④「趣旨説明—二松学舎の漢学教育を例として」 町 泉寿郎（二松学舎大学教授）</p> <p>報告⑤「旧制高等学校および人材教育—台北高等学校を中心として」 蔡 錦堂（台湾史研究所教授）</p> <p>報告⑥「日本近世最大規模の私塾咸宜園—咸宜園の教育が近代教育に及ぼした影響ー」 溝田 直己（日田市教育庁咸宜園教育研究センター学芸員）</p> <p>報告⑦「山田方谷の教育実践—閑谷学校との関連から」 牧角 悅子（二松学舎大学教授）</p>

名 称	国際学術研討会
テー マ	近代東アジアの漢学と文献研究（近代東亜漢学与文献研究）
主 催	二松學舎大学SRF
共 催	上海師範大学中国古典学研究中心
開催趣旨	近代日本における「漢学」は、近代教育制度の普及とともに、学術面では中国学・東洋学に脱皮し、この学術・教育体制が東アジアを中心とした諸国にも影響を及ぼした。中国・韓国・欧米など世界各地で「漢学」の新たな問い直しが進展しつつある現状を踏まえ、近150年の漢学研究を特に文献研究をキーワードにして振り返りながら、現在の「漢学」が置かれている諸問題と今後の展望について討議する。
日 時	平成28年12月25日（日） 9:30～16:30
会 場	上海師範大学新文科大楼会議室
プロ グラム	<p>第一部 司会 石立善（上海師範大学教授） 報告① 「關於中華書局修訂本『史記』」 趙生群（南京師範大学教授） 報告② 「二松學舎の日本漢学研究に関する取り組み」 町泉寿郎（二松學舎大学教授） 報告③ 「橋川時雄與『統修四庫提要』編纂」 吳格（復旦大学教授） 公開討論</p> <p>第二部 司会 町泉寿郎（二松學舎大学教授） 報告④ 「日本經学典籍西伝中国百年史」 石立善（上海師範大学教授） コメンテーター 劉玉才（北京大学教授） 報告⑤ 「論韓國漢文『尚書』文献」 錢宗武（揚州大学教授） コメンテーター 石立善（上海師範大学教授） 報告⑥ 「蟹江義丸『孔子研究』と山路愛山『孔子論』」 工藤卓司（台湾致理科技大学助理教授） コメンテーター 樊志輝（上海師範大学教授） 報告⑦ 「幕末日本の考証学 一海保漁村を中心に」 清水信子（二松學舎大学非常勤講師） コメンテーター 牧角悦子（二松學舎大学教授） 公開討論</p>



「論語」と「算盤」が生会う東アジアの近代 渋沢栄一と三島中洲



渋沢史料館所蔵



二松學舎大学所蔵

シンポジウムⅠ

日時：2017年 1月21日（土）

14:00～16:00（受付：13:30～）

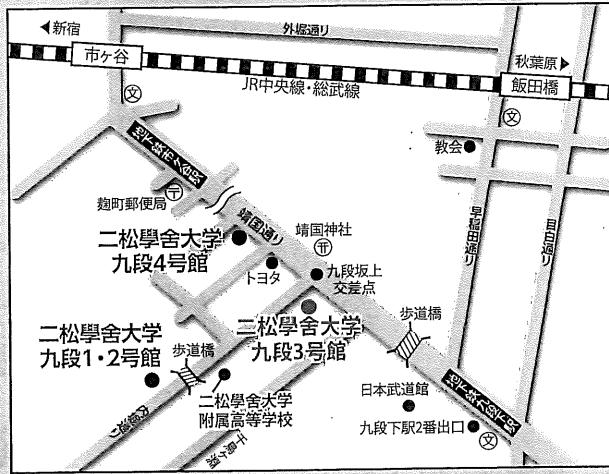
会場：二松學舎大学九段校舎3号館 3021教室
(東京都千代田区三番町 6-16、TEL：03-3261-3535)

趣旨説明：町泉寿郎（二松學舎大学教授）

報告者：濱野靖一郎（日本学術振興会特別研究員）

桐原健真（金城学院大学教授）

コメンテーター：木村昌人（渋沢栄一記念財団主幹（研究））



日時：2017年 1月31日（火）
14:00～16:00（受付：13:30～）

会場：倉敷市立美術館3F 講堂

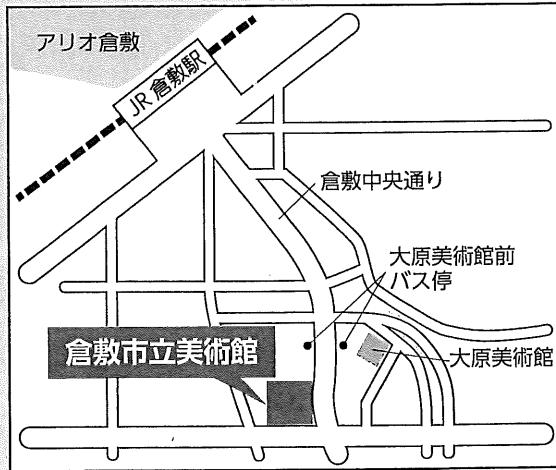
(岡山県倉敷市中央 2-6-1)

趣旨説明：町泉寿郎（二松學舎大学教授）

報告者：于臣（横浜国立大学准教授）

朴暎美（成均館大学研究教授）

コメンテーター：木村昌人（渋沢栄一記念財団主幹（研究））



■主催 二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の知の形成と漢学」・公益財団法人渋沢栄一記念財団

■後援 倉敷市、「山田方谷の軌跡（～奇跡～）」実行委員会、備中倉敷学、中島学区郷土を学ぶ会

■問い合わせ先

シンポジウムⅠ／二松學舎大学 TEL03-3261-3535

-30-

シンポジウムⅡ／倉敷市観光課 TEL086-426-3411

東アジアの近代化と漢学 シンポジウム in Paris

日 時： 2017年 2月 11日（土） 13:30～17:00

会 場： パリ第7大学 グラン・ムーラン C棟 4階 479号

(Université Paris Diderot, Grands Moulins, Aile C, 4ème étage, salle 479C)

参加無料・当日受付

～開催趣旨～

19-20世紀における東アジアの近代化過程において、伝統的な学知がどのような役割を果たしたのかという問題は議論されて久しいが、我々は今なお様々な問題を抱えている。日本国内の人文系領域の研究状況において、近代と前近代の断絶は解消されていない。他方、グローバリゼーションや情報化社会の進展とともに、ローカルな情報発信が活発化することによって新たな研究動向が生まれております。また中国・韓国・日本など東アジア各地で伝統学知の再評価の動きもある。

「漢学」(漢文による学び)をキーワードにして、現状と今後の展望を見据ながら、東アジア諸地域の近代化の問題を討議する。

第1部：報告（敬称略・発表順）

町 泉寿郎

(二松學舎大学)

「渋沢栄一と三島中洲の接点」

清水 信子

(二松學舎大学)

「江戸後期から明治期における考証学—海保漁村を中心として」

ヴィグル マティアス

(浙江大学)

「19世紀初期における日本医学の近代化の幕開け

—針師石坂宗哲とシーボルトの交流を例として」

キリ パラモア

(ライデン大学)

「20世紀政治儒教の世界的様子」

エディ デュフルモン

(ボルドー第3大学)

「明治時代における哲学の成立の一側面。孟子、ルソーとカントの出会い。アルフレッド・フイエと中江兆民との折衷主義について」

牧角 悅子

(二松學舎大学)

「中国の近代学術」

司会 ハイエク マティアス

(パリ第7大学)

第2部：討論

司会 江藤 茂博

(二松學舎大学)

~日漱石生誕150周年

松學舍大學創立140周年記念事業
部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(SRF)

の漢文漱石脈



第一回 3/11 土 13:00~18:00

会場 二松學舍大学九段キャンパス 1号館 4階 401教室

講演 (13:00 ~ 14:15)

齋藤希史 (東京大学教授)

漱石と漢詩文——修辞から世界へ

パネル・ディスカッション

パネリスト報告 (14:30 ~ 16:15)

北川扶生子 (天理大学教授)

〈文〉から〈小説〉へ

——漱石作品における漢語・漢文脈と読者

合山林太郎 (慶應義塾大学准教授)

蔵書を用いた漱石漢詩読解の試み

——『漾虚碧堂図書目録』所載文献に焦点をあてて

牧角悦子 (二松學舍大学教授)

夏目漱石の「風流」——明治人にとっての漢詩

討論 (16:30 ~ 17:50)

聴講無料・事前予約不要

第二回 3/12 土 13:00~17:00

会場 二松學舍大学九段キャンパス 1号館地下 2階 中洲記念講堂

研究発表+討論

研究発表 (13:00 ~ 15:30)

阿部和正 (二松學舍大学 SRF 研究助手)

漢学塾のなかの漱石

——講義録・証言でたどる「教養」形成

伊藤かおり (東京学芸大学専任講師)

〈趣味〉を偽装する——夏目漱石と近代日本の社交文化

木戸浦豊和 (東北大大学院)
ティスト

夏目漱石の「趣味」——価値判断の基準としての感情

藤本晃嗣 (近畿大学非常勤講師)

漱石晩年の思想と漢学の伝統

——西田幾多郎との比較から

討論 (15:50 ~ 17:00)



関連企画

漱石アンドロイドと漱石研究の「これから」

3/12 土 10:30~12:00

会場 二松學舍大学九段キャンパス 1号館地下 2階 中洲記念講堂

作品朗読と解説 漱石アンドロイド (二松學舍大学特別教授)

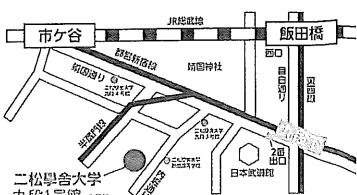
講演 増田裕美子 (二松學舍大学教授)

漱石と漢語——諺曲との関連から

問い合わせ先 二松學舍大学東アジア学術総合研究所

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-4-14 九段4号館

TEL 03-3261-3535 FAX 03-3261-3536



東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線
「九段下」駅下車、2番出口より徒歩8分
JR「市ヶ谷」「飯田橋」駅下車、徒歩15分
※会場には駐車場がありません。お車でのご来場は
遠慮ください。

第5回 二松學舎大学シンポジウム

テーマ 易学の展開と近代 易を現代に生かす

日時 2017年6月25日(日) 13:00~17:00

場所 二松學舎大学 中洲記念講堂 (東京都千代田区三番町6-16)

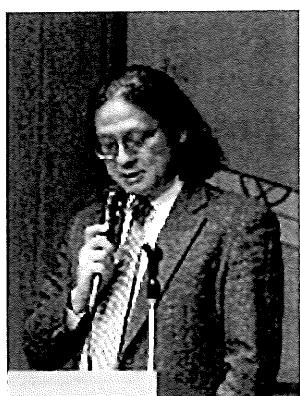
会費 3,000円

演題



町 泉 寿 郎
(二松學舎大学教授)

学前近代と近代の
学問の断絶 易と漢方



田 中 正 樹
(二松學舎大学教授)

演題

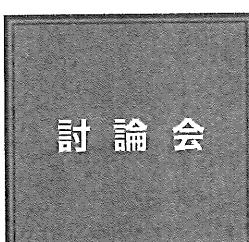
近易学の展開
近世以降



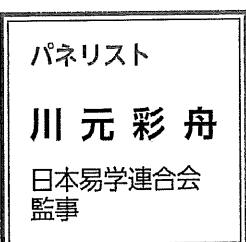
牧 角 悅 子
(二松學舎大学教授)

演題

古代～中世まで
易学の展開

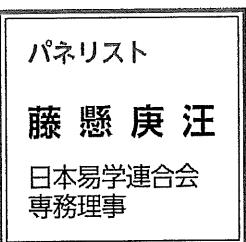


討論会



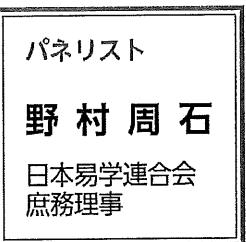
パネリスト

川 元 彩 舟
日本易学連合会
監事



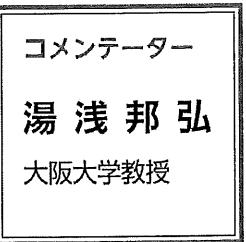
パネリスト

藤 懸 庚 汪
日本易学連合会
専務理事



パネリスト

野 村 周 石
日本易学連合会
庶務理事



コメンテーター

湯 浅 邦 弘
大阪大学教授

会場: 二松學舎大学 九段1号館「中洲記念講堂」

会場地図

アクセス:

地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅下車、2番出口より徒歩8分

地下鉄半蔵門線「半蔵門」駅下車、5番出口より徒歩10分

JR中央線（総武線）、地下鉄有楽町線、東西線、南北線「飯田橋」駅下車、徒歩15分

JR中央線（総武線）、地下鉄有楽町線、南北線、都営新宿線「市ヶ谷」駅下車、徒歩15分

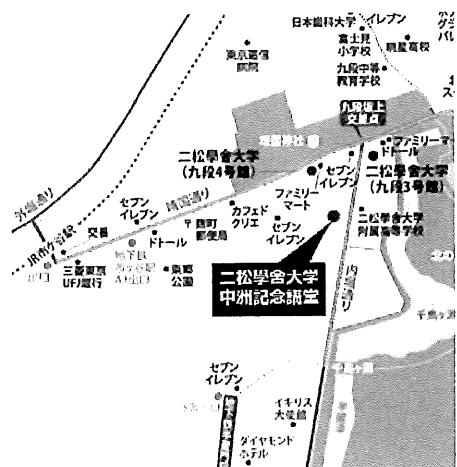
参加お申し込み・お問い合わせ先:

公益社団法人 日本易学連合会

東京都新宿区新宿1-31-18 ダイアパレス新宿一丁目 316号

電話: (03) 5362-1825 FAX :(03) 5362-1826

主催: 公益社団法人日本易学連合会 共催: 二松學舎大学



『文学部の現在

－東アジアの高等教育 文学・外国語学・古典学／儒学』

140th
anniversary



開会挨拶 13:30

第Ⅰ部 東アジアの文学部の現在

- | | |
|--|-----------------------------|
| 1 「日本の文学部形成」 | 学校法人二松學舎理事長 水戸英則 |
| 2 「中国の高等教育機関における語文教育の人文性と工具性
—そのジレンマと対策をめぐって」 | 二松學舎大学教授 江藤茂博
北京大学教授 廖可斌 |
| 3 「中国の大学院における日本語教育」 | 浙江越秀外国语学院教授 王宗傑 |
| 4 「人文学の研究教育と英語—香港城市大学を例として」 | 香港城市大学准教授 王小林 |

- (休憩) -

第Ⅱ部 東アジアの高等教育（古典学/儒学）の現在 15:00~16:15

- | | |
|-----------------------------------|---------------|
| 5 「日本の大学における古典学の現況」 | 二松學舎大学教授 町泉寿郎 |
| 6 「韓国における漢文古典研究の現況」 | 慶尚大学校教授 張源哲 |
| 7 「日中韓における儒学の現代的意義」 | 魯東大学准教授 朴銀姬 |
| 8 「台湾の高等教育機関における日本語教育・日本研究の現状と展望」 | 台湾大学准教授 林立萍 |
| 9 「中国の高等教育機関における日本語教育・日本研究の現状と展望」 | 浙江工商大学教授 王宝平 |

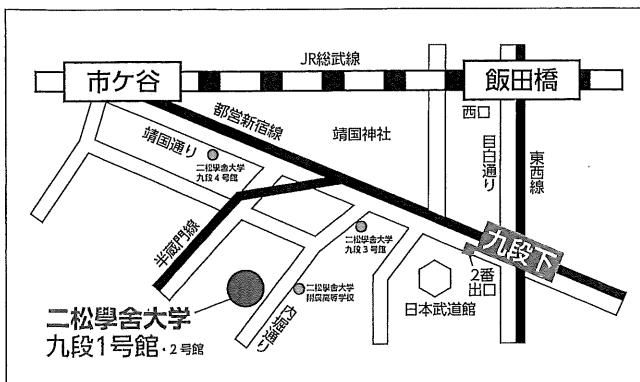
- (休憩) -

総括討議 16:20~16:50

閉会挨拶 16:50~16:55

二松學舎大学学長 菅原淳子

日時：7月8日（土曜日）13:30~17:00
会場：二松學舎大学 九段校舎
1号館202教室(先着100名 無料 予約不要)



○東京メトロ 東西線・半蔵門線、都営新宿線「九段下」駅下車、

2番出口より徒歩8分

○「市ヶ谷」「飯田橋」駅下車、徒歩15分

※会場には駐車場がありません。お車でのご来場はご遠慮ください。

同日開催 次世代研究発表会 9:00~12:00
司会進行：川邊雄大（二松學舎大学・SRF研究協力員）

- | | |
|---|------------------|
| ① 「韓国における山学研究の現況—智異山を中心に」 | 慶尚大学校漢文学科 姜貞和 |
| ② 「田中正造の思想世界：神、天、聖、無、天国」 | 二松學舎大学 商兆琦 |
| ③ 「明代楊亘の『武夷志』が朝鮮の山誌編纂に与えた影響」 | 慶尚大学校慶南文化研究院 全丙哲 |
| ④ 「林羅山と清原宣賢の校勘学—『三略直解』をめぐって」 | 二松學舎大学大学院 武田祐樹 |
| ⑤ 「『朝鮮通信総録』から見る日朝交流」 | 慶尚大学校慶南文化研究院 鄭英實 |
| ⑥ 「漢文白話小説の書き手—「秋風道人」とは誰か」 | 二松學舎大学大学院 楊爽 |
| ⑦ 「孔子2400年追憶記念祭と斯文会」 | 関西大学東西研究所 丁世絃 |
| ⑧ 「19世紀日本の経穴学にみる漢蘭折衷」 | 二松學舎大学大学院 加畠聰子 |
| ⑨ 「近代転換期の朝日交流に関する研究とデジタル人文学の出会い
—修信使資料のDB編纂プロジェクトを中心にして」 | 韓國学中央研究院 柳印泰 |
| ⑩ 「近代「日本」の「表記」をめぐって
—「漢字」を超える志向と文脈」 | 二松學舎大学大学院 平崎真右 |

(会場：二松學舎大学 九段校舎 1号館 807 教室)



二松學舎大学創立 140周年記念事業

140th
ANNIVERSARY

シンポジウム

近代岡山における実業家と 学術・文化・公益事業



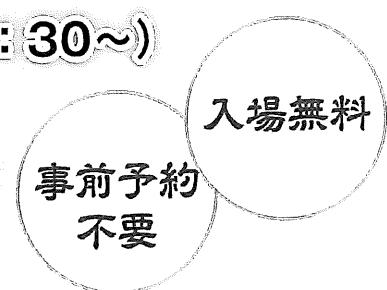
渋沢史料館所蔵



二松學舎大学所蔵

日 時：2018年1月29日(月)
14:00～16:30 (受付 13:30～)

会 場：新渓園 (岡山県倉敷市中央1-1-20)



開会挨拶：井上 潤 (渋沢史料館館長)

報告者：町泉寿郎 (二松學舎大学教授)

木村昌人 (渋沢栄一記念財団研究主幹)

広瀬就久 (岡山県立美術館主任学芸員)

司会・コメンテーター

江藤茂博 (二松學舎大学文学部長)

主 催 二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「近代日本の知の形成と漢学」・公益財団法人渋沢栄一記念財団

後 援 倉敷市、「山田方谷の軌跡（～奇跡～）」実行委員会、備中倉敷学、
中島学区郷土を学ぶ会



■問い合わせ先■

二松學舎大学 TEL03-3261-3535

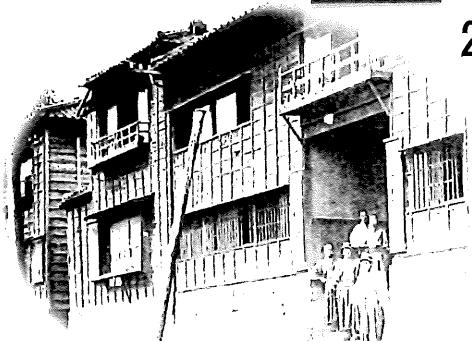
共催

二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（SRF）
早稲田大学中国古籍文化研究所

「漢学者記念館会議」

日時 2017年7月29日（土）
10:00-16:00（入場 9時30分）

会場 二松學舎大学 九段校舎 1号館
2階201教室・11階会議室（全体会議）



参加費無料
当日受付

第1部：講演会（10:00-11:55）

趣旨説明（SRF 研究代表者 町 泉寿郎）

◆基調講演 「書院と私塾の発展——中国・韓国・日本」

関西大学 教授 吾妻 重二

講演Ⅰ 「成島柳北の漢学」

ブランダイス大学 准教授 マシュー・フレーリ

講演Ⅱ 「地理学者志賀重昂の漢詩

——テキサス州のアラモ遺跡に立つ

漢文「記念碑」に触れて考えたこと

早稲田大学 教授 稲畑 耕一郎

第2部：「漢学者記念館の現状と課題」（13:30-15:00）

「SRF事業による漢学塾関連資料調査の報告」

SRF 研究代表者 町 泉寿郎、助手 平崎 真右

●各記念館からの報告（各10分）

安積良斎記念館

蘆東山記念館

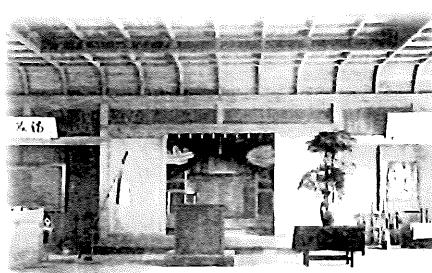
興譲館

広瀬淡窓・咸宜園教育研究センター

泊園記念会

安井息軒記念館

高梁方谷会



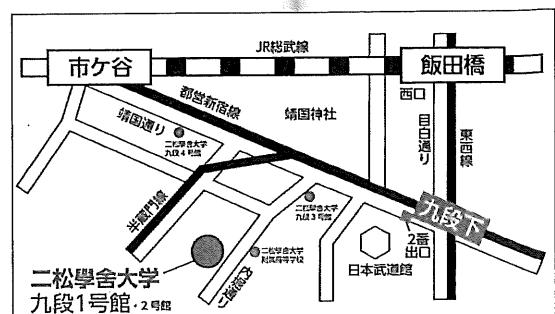
○全体会議（15:15-15:55）

<会場アクセス>

- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅下車、徒歩8分
- 「飯田橋」「市ヶ谷」駅下車、徒歩15分

<問い合わせ先>

二松學舎大学 東アジア学術総合研究所
TEL:03-3261-3535 E-mail:kiban@nishogakusha-u.ac.jp



講演会

年度	開催日	主催	会場	講師	演題	参加者
28	28. 5. 1	倉敷物語館（SRF協力）	倉敷物語館	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎	「山田方谷と三島中洲」	
	28. 7. 14	備中倉敷学（SRF協力）	倉敷公民館	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子	「幕末明治の備中・備前の名士たち —三島・野崎・大原一—」	
	28. 8. 20	「山田方谷の軌跡（～奇跡～）」実行委員会（SRF協力）	井原市民会館	事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹	「山田方谷の思想 —『孟子養氣章或問圖説』の「圖』を中心に—」	80
	28. 12. 5	大分県日田市教育委員会（SRF共催）	日田市役所 7階 大会議室	支援事業連携者・ 学校法人二松學舍顧問 石川 忠久	「明治期の咸宜園関係の漢詩人たち」	90
	29. 3. 18	SRF・三原市教育委員会	三原市中央公民館 2階 中講堂	事業推進担当者・ 文学部特別招聘教授 稻田 篤信	「平賀晋民の人と学問」	100
				事業推進担当者・ 文学部特別招聘教授 野間 文史	「平賀晋民と四書五経」	
29	30. 1. 28	「山田方谷の軌跡（～奇跡～）」実行委員会（SRF協力）	笠岡市中央公民館	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎	「山田方谷門下の原田一道と三島中洲」	90

セミナー

年度	開催日	主催	会場	講師	講座名	参加者
28	28. 7. 14-21	SRF・ 浙江工商大学東方語言文化学院	浙江工商大学	杭州でのG20国際会議開催の影響により、現地講師のみで開催。	漢学概論 漢学研究方法 漢学研究課題 漢文訓詁 候文	30
29	29. 8. 21-30	SRF・ 浙江工商大学東方語言文化学院	浙江工商大学	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子	奈良時代日本漢学概論 平安時代日本漢学概論	33
				事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎	中世日本漢学概論 近世日本漢学概論	
				事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹	明治時代日本漢学概論 大正時代日本漢学概論	

1-3 学術交流会

年度	開催日	主催	会場	発表者	論題	参加者
29	29. 9. 21	SRF・成均館大学校	本学1号館	成均館大学校修士課程 金 唯濱 成均館大学校学部4年 羅 智熙	「成均館大の歴史とその文学的な形象化」	60
				二松學舎大学文学部4年 鈴置 拓也	「二松學舎大学の歴史とその所蔵資料について」	
				成均館大学校教授 李 熙穆 成均館大学校副教授 金 竜泰	「成均館大学校の儒教伝統と漢文学研究のヴィジョン」	
				事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎	「近代日本漢学と東アジア」	
				成均館大学校教授 安 大会 成均館大学校副教授 金 栄鎮	「日本での韓国文学学講座開設と韓国漢文学教材の編纂」	
29	29. 9. 22	SRF・鄭州大学	本学1号館	鄭州大学 劉 迪・李 小白	(研究報告)	160
				事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎	「「近代日本の知の形成と漢学」プロジェクトの活動状況」	
				鄭州大学教授 姜 建設	「孔子詩学思想について—『詩論』木簡を手掛かりとして」	
				事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子	「中国文学史における『文選』」	
				鄭州大学教授 劉 志偉	「「文選学」と「活体文献」—鄭州大学及び中原研究を中心に」	
30	30. 1. 15	SRF・檀国大学校	本学1号館	檀国大学校 金 智政	「韓国漢文教育の特徴と前途」	22
				北京師範大学 許 詰	「漢字漢文教育研究における国際的な協力基盤の構築の必要性と方策」	
				事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎	「SRF事業における近代漢学（研究と教育）研究に関する取り組み」	
				研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大	「戦前期に日本国内（内地）・台湾・朝鮮で使用された漢文教科書について」	

1-4 研究報告会

年度	回	開催日	会場	報告者	テーマ	参加者
27	1	28. 1. 21	本学1号館 11階会議室	研究員 徳重 公美	「徂徠学における「道徳」の再検討(倫理思想史における位置づけの再検討)」	13
				研究助手 武田祐樹	「江戸初期(17世紀前半)における朱子学および儒者の意義 一林羅山を中心に―」	
27	2	28. 3. 22	本学1号館 11階会議室	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博	「近代日本の教育・文化と漢学塾」	17
				事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子・町 泉寿郎	「フランス リール第三大学 オランダ ライデン大学資料調査・ワークショップ」	
28	3	28. 4. 28	本学1号館 11階会議室	事業推進担当者・文学部特別招聘教授 稻田 篤信	「唐音・訓読・国字解 一平賀中南の読書論―」	17
				事業推進担当者・東アジア学術総合研究所特命教授 加藤 国安	「『子規全集』未収録の子規自筆漢詩抜萃写本について」	
28	4	28. 6. 30	本学1号館 11階会議室	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博	「近代文化の基盤としての身体性と物語ー序として」	17
				支援事業連携者・浙江大学講師 ヴィグル・マティアス	「幕末期の医学の身体表現 一漢語と蘭語」	
				文学部専任講師 張 佩茹	「コミュニケーションの基盤をなす言語と漢字の身体性」	
				支援事業連携者・文学部准教授 松本 健太郎	「メディアが表象する「私」のイメージの変容と言語 一写真・ゲーム・インターネット」	
29		29. 7. 8	本学1号館 8階807教室	研究員 商 兆琦	「田中正造の思想世界：神、天、聖、無、天国」	20
				慶尚大学校慶南文化研究院学術教授 全 丙哲	「明代楊宜の『武夷志』が朝鮮の山誌編纂に与えた影響」	
				研究助手 武田 祐樹	「林羅山と清原宣賢の校勘学 一『三略直解』をめぐって」	
				慶尚大学校慶南文化研究院専任研究员 鄭 英實	「『朝鮮通信総録』から見る日朝交流」	
				研究助手 楊 爽	「漢文白話小説の書き手 一「秋風道人」とは誰か」	
				関西大学東西研究所非常勤研究员 丁 世絃	「孔子2400年追憶記念祭と斯文会」	
				研究助手 加畑 聰子	「19世紀日本の經穴学にみる漢蘭折衷」	
				韓国学中央研究院博士課程 柳 印泰	「近代転換期の朝日交流に関する研究とデジタル人文学の出会い 一修信使資料のDB編纂プロジェクトを中心に」	
				研究助手 平崎 真右	「近代「日本」の「表記」をめぐって 一「漢字」を超える志向と文脈」	
30	2. 24	ライデン大学 アーセナール棟 001号教室		事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子	「レオン・ド・ロニー旧蔵の漢籍について」	10
				事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎	「レオン・ド・ロニー旧蔵の和漢古典籍について」	
				支援事業連携者・文学部専任講師 ヴィグル・マティアス	「新出のレオン・ド・ロニー資料（書簡・和漢仏辞書等）」	

1-5 テーブルスピーチ

年度	回	開催日	会場	ゲストスピーカー	テーマ	参加者
27	1	27. 12. 17	本学1号館 11階会議室	事業推進担当者・ 大阪大学大学院准教授 合山 林太郎	「日本漢文学プロジェクトの現状 一見えてきた課題と今後の展望一」	16
	2	28. 3. 22	本学1号館 11階会議室	大東文化大学 東洋研究所特任准教授 谷本 宗生	「1880 年代における第一高等中学校・帝国大学の衛生活動」	12
28	3	28. 5. 26	本学1号館 11階会議室	国文学研究資料館助教 野綱 摩利子	「亡国詩人の「明暗」」	18
	4	29. 1. 19	本学2号館 プレゼンテーションルーム	早稲田大学大学院 張 天恩 国際日本文化研究センター外国人研究员・ 鄭州大学教授 葛 繼勇	「歴史としての文学 一佐藤春夫の小説『李鴻章』を通して」 「日本出土の典籍木簡について」	16
29	5	29. 7. 11	本学1号館 11階会議室	台湾大学教授 徐 興慶	「「中期水戸学」形成の試論」	15
	6	29. 11. 30	本学1号館 11階会議室	筑波大学助教 田中 友香理	「村の漢学塾・長善館の史料整理」	13

1-6 公開講座

講座名	年度	回	開催日	曜	時間	会場	講師	出席者	
幕末・明治の漢文	28	1	28. 10. 1	土	13 : 00-14 : 30	本学4号館 4081教室	支援事業連携者・ 学校法人二松學舎顧問 佐藤 保	29	
		2	28. 11. 5			本学4号館 4061教室		23	
		3	28. 12. 10					19	
		4	29. 1. 21					15	
		5	29. 2. 4					17	
	29	1	29. 4. 8	土	13 : 00-14 : 30	本学3号館 3031教室		14	
		2	29. 5. 20			本学4号館 4061教室		19	
		3	29. 7. 1					17	
		4	29. 7. 22					17	
		5	29. 10. 21					16	
		6	29. 11. 18					15	
		7	29. 12. 16					15	
		8	30. 2. 3					15	
幕末・明治の漢詩	28	1	28. 10. 1	土	14 : 50-16 : 20	本学4号館 4081教室	支援事業連携者・ 学校法人二松學舎顧問 石川 忠久	46	
		2	28. 11. 5			本学4号館 4061教室		40	
		3	28. 12. 10					35	
		4	29. 1. 21					34	
		5	29. 2. 4					37	
	29	1	29. 4. 8	土	14 : 50-16 : 20	本学3号館 3031教室		31	
		2	29. 5. 20			本学4号館 4061教室		44	
		3	29. 7. 1					36	
		4	29. 7. 22					37	
		5	29. 10. 21					31	
		6	29. 11. 18					30	
		7	29. 12. 16					31	
		8	30. 2. 3					35	

2 研究成果

2-1 刊行物

図書

年度	書誌名	責任編集者	発行年月日
28	『平賀中南『春秋集箋』』 (近代日本漢籍影印叢書 1)	事業推進担当者・文学部特別招聘教授 野間 文史	2017年3月25日
	『澤井常四郎『経学者平賀晋民先生』』 (近代日本漢学資料叢書 1)	事業推進担当者・文学部特別招聘教授 稲田 篤信	2017年3月30日
29	『柿村重松『松南雜草』』 (近代日本漢学資料叢書 2)	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎	2017年10月30日
	『新収資料展 近代漢学の諸相』 二松學舎大学資料展示室企画展図録	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎	2018年3月1日
	『漢文脈の漱石』	事業推進担当者・文学部教授 山口 直孝	2018年3月20日
	『日本医家伝記事典 一宇津木昆台『日本医譜』一』	二松學舎大学SRF・日本内經医学会・ 北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部	2018年3月31日

予稿集

年度	書誌名	責任編集者	発行年月日
27	『国際シンポジウム 近代東アジアの漢学と教育 —備中倉敷から東アジアの近代教育を考える—』 予稿集	二松學舎大学SRF	2016年3月12日発行
29	『文学部の現在 一東アジアの高等教育 文学・外国語学・古典学/儒学』 予稿・資料集	二松學舎大学SRF・文学部	2017年7月8日発行
	『「漢学者記念館会議」』 予稿集	二松學舎大学SRF	2017年7月29日発行

ニュースレター

年度	書誌名	目次	発行年月日
27	『雙松通訊』 V o 1. 20	二松學舎大学SRF	2015年8月31日発行
28	『雙松通訊』 V o 1. 21	二松學舎大学SRF	2016年7月31日発行
29	『雙松通訊』 V o 1. 22	二松學舎大学SRF	2017年4月25日発行

2-2 ホームページ

URL <http://www.nishogakusha-kanbun.net/srf/>

二松學舎大学 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (SRF)



2017 | 2016 | 2015

シンポジウム | 各班活動 | ワークショップ | 研究報告会 | テーブルスピーチ | 刊行物 | データベース | SRF組織・構成員

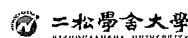
採択日	平成27年6月18日
事業番号	S1591004
研究部点	研究拠点を形成する研究
研究プロジェクト名	近代日本の「知」の形成と庶学
研究期間	平成27年度～平成31年度

シンポジウム

SRF国際シンポジウム

テーマ | 漢字文化とコミュニケーション—盆地・現代アート・映像

二松學舎大学 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (SRF)



2017 | 2016 | 2015

シンポジウム | 研究報告会 | テーブルスピーチ | 公開講座 | 刊行物 | SRF組織・構成員

招待討論 問合せ機関	「中国の高等教育機関における日本語教育・日本研究の現状と展望」 発表者: 王宝平 (浙江工商大学教授) 二松學舎大学学長 菅原淳子
---------------	---

スライドショーを見る

二松學舎大学SRF・早稲田大学中国古籍文化研究所共催「漢学者記念館会議」

日時	7月29日 (土) 10:00～16:20
会場	二松學舎大学1号館 第1部 2階201教室 第2部 11階会議室
司会挨拶	江原茂博 (二松學舎大学SRF該学科研究室主任・二松學舎大学文学部長)
趣旨説明	町泉寿郎 (二松學舎大学SRF研究代表者・二松學舎大学教授) 見開講演 「書院と私塾の発展—中國・韓国・日本」

二松學舎大学 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 (SRF)



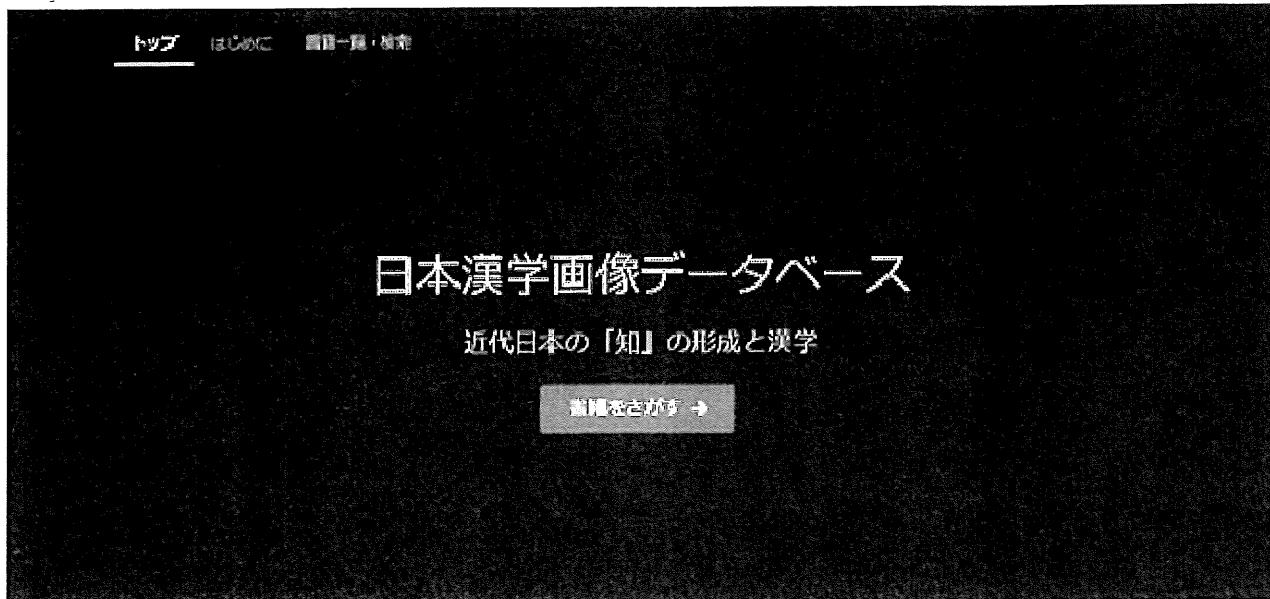
2017 | 2016 | 2015

シンポジウム | 研究報告会 | テーブルスピーチ | 公開講座 | 刊行物 | SRF組織・構成員

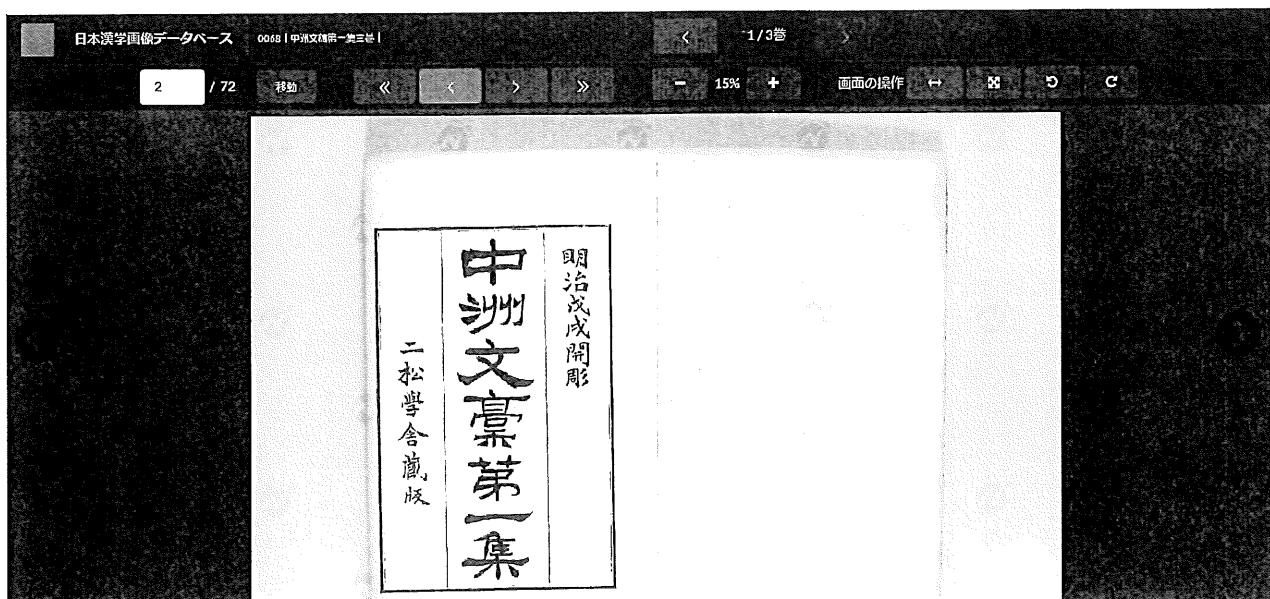
音楽	「中国の音楽文化と日本文化」(中国音楽家)
詩歌	「中国の詩歌文化と日本文化」(中国詩人)
絵画	「中国の絵画文化と日本文化」(中国画家)
洋書紹介	「中国の洋書文化と日本文化」(中国洋書研究者)

2-3 データベース

URL <http://www.nishogakusha-kanbun.net/database2/> ※ 作業のため、停止中



ID	書名	出版事項	冊数	カット数	IIIIF
0068	中洲文稿第一集三巻		3	195	
0069	中洲文稿第二集三巻		3	225	
0070	中洲文稿第三集三巻		3	233	
0071	中洲文稿第四集三巻		3	159	



2-4 研究成果 事業推進担当者

平成27年度

氏名	区分	単/共	題目	掲載誌・出版社等	年月	頁数
町 泉寿郎	図書	共	芳野金陵と幕末日本の儒学	二松学舎大学図書館大学資料展示室	27.10	55
	図書	共	曲直瀬道三と近世日本医療社会	武田科学振興財団杏雨書屋	27.10	38-67 185-211 237-271 400- 416 417-444 643-679
	図書	共	形成される教養—十七世紀日本の〈知〉	勉誠出版	27.11	269-288
	図書	共	備前岡山の在村医中島家の歴史	思文閣出版	27.11	125-137 219- 231 232-235 236-250
	図書	共	テーマで読み解く中国の文化	ミネルヴァ書房	28.3	
	論文	単	幕末明治における学術・教学の形成と漢学	『日本漢文学研究』第11号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	28.3	133-154
	講演	単	三島中洲について	市民公開講座 於:倉敷市	27.10.11	
	口頭発表	単	筆談 幕末遺老芳野金陵と清国公使館員の筆談録	シンポジウム「漢字文化とコミュニケーション—筆談・現代アート・映像」 於:浙江工商大学	27.10.30	
	講演	単	山田方谷と三島中洲について	市民公開講座 於:倉敷市	27.11.22	
	口頭発表	単	Leon de Rosny Collection 管見	リール第三大学ワークショップ 於:リール第三大学	28.2.12	
江藤 茂博	講演	単	漢字文化とコミュニケーション—新出の芳野金陵と清国公使館員の筆談録	SRF国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市	28.3.12	
	口頭発表	単	趣旨説明 —二松学舎の漢学教育を例として	SRF国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学」 於:台湾師範大学	28.3.30	
	論文	単	芥川龍之介『羅生門』『鼻』『芋粥』一語り手の位置と小説の方法	『二松』第30集 二松學舎大学大学院	28.3	3-19
	書評	単	塩村耕編『文学部の逆襲』(風媒社)	『二松学舎大学人文学論叢』第95輯 二松學舎大学人文学会	27.10	203-205
	講演	単	日本の近代高等教育における中国学の展開と現在	中国三省大学日本語教育学会 於:安徽大学	27.10.17	
田中 正樹	口頭発表	単	映像 物語空間のなかの漢字文化	シンポジウム「漢字文化とコミュニケーション—筆談・現代アート・映像」 於:浙江工商大学	27.10.30	
	口頭発表	単	方法としての漢学者・漢学塾	SRF国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学」 於:福華国際文教会館(台湾大学)	28.3.29	
	口頭発表	単	宋代山水表現に於ける視覚と聴覚	第27回獨協インターナショナル・フォーラム「見えるを聞いておなす—アート、イメージ、テクスト」 於:獨協大学	27.12	
	口頭発表	単	「大西巨人と漢詩文—『申請喜劇』を題材に—」	公開ワークショップ「大西巨人の現在—変革の精神の系譜—」 於:本学	28.2.27	
牧角 悅子	論文	単	中国文学史における近代—古典再評価の意味と限界	『第6回日中学者中国古代史論壇論文集—中国史の時代区分の現在—』 中国社会科学院歴史研究所・東方学会	27.8	285-293
	論文	単	『文選』編纂に見る「文」意識	『二松学舎大学人文学論叢』95 二松學舎大学人文学会	27.10	65-87
	論文	単	文から文学への展開—古代変質の指標として—	『二松』第30集 二松學舎大学大学院	28.3	49-68
	論文	単	魯迅と小説—「速朽の文章」という逆説	『神話と詩 日本開一多学会報』第14号 日本開一多学会事務局	28.3	1-32
	講演記録	単	日本における儒教—その発展過程と特徴	『日本漢文学研究』第11号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	28.3	175-187
	口頭発表	単	黎明期の中国学—近代学術における日中の情報交換	シンポジウム「近代東アジアの思想と文化」 於:嘉興学院	27.10.31	
	講演	単	山田方谷と三島中洲	山田方谷の軌跡講演会 於:高梁市	28.1.23	

	口頭発表	単	リール図書館蔵レオン・ド・ロニー旧蔵書 漢籍資料について	リール第三大学ワークショップ 於：リール第三大学	28. 2. 12	
	口頭発表	単	山田方谷と閑谷学校	SRF国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於：倉敷市	28. 3. 13	
	口頭発表	単	山田方谷の教育実践 一閑谷学校との関連から	SRF国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学」 於：台湾師範大学	28. 3. 30	
山口 直孝	論文	単	知識人の責務—大西巨人短編集『五里霧』の空所	『社会文学』第42号 日本社会文学会	27. 8	70-81
稲田 篤信	図書	共	上田秋成研究事典	笠間書院	27. 12	205-215
	図書	共	恋する人文学—知をひらく22の扉—	翰林書房	28. 3	110-118
野間 文史	論文	単	《春秋左氏傳》其構成與基軸	林慶彰主編『中日韓經學國際學術研討會論文集』台灣萬卷樓圖書公司	27. 4	
	論文	単	自述《春秋正義校勘記》之操作	劉玉才・水上雅晴主編『經典與校勘論叢』北京大学出版社	27. 4	
	論文	単	春秋正義校勘記を作成して	『二松』第30集 二松學舍大学大学院紀要	28. 3	69-92
	訳注	単	周易正義訓讀 一同人卦・大有卦一	『東洋古典學研究』第39集 廣島大學東洋古典學研究會	27. 5	73-90
	訳注	単	周易正義訓讀 一謙卦・豫卦一	『東洋古典學研究』第40集 廣島大學東洋古典學研究會	27. 10	21-38
	紹介	単	私の研究 春秋左伝注疏	『人文論叢』第96輯 二松學舍大学人文学会	28. 3	99-101
小方 伴子	論文	単	秦鼎『国語定本』に於ける清朝校勘学の成果の導入とその限界—顧千里『国語札記』の利用を中心に—	『人文論叢』第95輯 二松學舍大学人文学会	27. 10	126-153
加藤 国安	図書	単	『明治漢文教科集成 第III期』第6巻・第7巻	不二出版	27. 9	
	図書	単	『明治漢文教科集成 第III期』解説・総索引	不二出版	27. 9	
	図書	単	『子規全集』未収録・自筆漢詩抜萃写本—『隨錄詩集』等翻刻・解題	文部科学省科研費基盤研究(C)報告書	28. 3	
	小文	単	人類の未来と日本漢詩	『季報』92 二松學舍大学附属図書館	27. 7	2
	口頭発表	単	明治漢文教科書に見る備中人の漢学	SRF国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於：倉敷市	28. 3. 13	
朴 暎美	口頭発表	単	日治期朝鮮の漢文教科書における日本漢学の様子	SRF国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於：倉敷市	28. 3. 13	
王 宝平	講演	単	三島中洲と明治前期に来日した中国人	SRF国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於：倉敷市	28. 3. 13	
合山 林太郎	図書	共	テーマで読み解く中国の文化	ミネルヴァ書房	28. 3	335-355
	口頭発表	単	日本漢文学プロジェクトの現状—見えてきた課題と今後の展望—	SRF第1回テーブルスピーチ 於：本学	27. 12. 17	
	口頭発表	単	近代の漢詩詞華集と教育との関係	SRF国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於：倉敷市	28. 3. 13	

平成28年度

氏名	区分	単/共	題目	掲載誌・出版社等	年月	頁数
町 泉寿郎	図書	共	渋沢栄一は漢学とどう関わったか —「論語と算盤」が出会う東アジアの近代	ミネルヴァ書房	29. 2	1-6 171-203
	講演	単	山田方谷と三島中洲	SRF・倉敷市・「山田方谷の軌跡」実行委員会共催講演会 於：倉敷市	28. 5. 1	
	口頭発表	単	東京大学文学部から見た哲学・宗教学・倫理学の形成と井上哲次郎	釜山大学校佔畢斎研究所主催シンポジウム 於：釜山大学校	28. 7. 14	
	講演	単	二松学舎大学における近代漢学研究の取り組み	中国日語教学研究会浙皖赣分会2016年会 於：江西師範大学	29. 10. 22	
	講演	単	『医經千文』からみた芦東山の医学	芦東山生誕320年・芦東山記念館開館10周年記念講演会 於：一関市大東コミュニティーセンター	28. 11. 5	
	講演	単	共同体としての東アジア	海外著名学者招請講演会 於：慶尚대학교	28. 11. 28	
	口頭発表	単	二松學舎の日本漢学研究に関する取り組み	SRF主催・上海師範大学共催シンポジウム 於：上海師範大学	28. 12. 25	
	講演	単	日本漢学簡介	上海師範大学大学院講演会 於：上海師範大学	28. 12. 29	
	口頭発表	単	渋沢栄一と三島中洲の接点	国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」 於：パリ第7大学	29. 2. 11	
江藤 茂博	論文	単	芥川龍之介「妙な話」論（大野淳一教授記念号）	『武藏大学人文学会雑誌』第48巻第2号 武藏大学人文学会	29. 3	31-46
	論文	単	魯迅『藤野先生』—「幻燈」と「写真」	『二松』第31集 二松學舎大学大学院	29. 3	125, 127-136
田中 正樹	講演	単	山田方谷の思想 —『孟子養氣章或問圖説』の「圖を中心に—	「山田方谷の軌跡」講演会 於：井原市民会館	28. 8. 20	
	講演	単	三島中洲の学術	くらしき市民講座 於：ライフパーク倉敷	28. 12. 3	
高山 節也	図書	単	佐賀県立図書館蔵蓮池鍋島藩関係書籍目録対照表	二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	28. 7	1-120
	論文	単	佐賀県立図書館蔵蓮池文庫蔵書目録の基礎的考察	『国学院雑誌』117巻11号 国学院大學	28. 11	435-456
牧角 悅子	論文	単	文学史という方法論	『第8回日中学者中国古代史論壇論文集』中国社会科学院歴史研究所・東方学会	28. 5	
	論文	単	古代中国の都市論—理念の王国から國際都市へ—	二松學舎大学文学部中国文学科編『東アジアにおける都市文化—都市・メディア・東アジアー』明徳出版社	29. 3	
	論文	単	聞一多における詩と学術—詩と神話の親和性—	『神話と詩 日本聞一多学会報』第15号 日本聞一多学会事務局	29. 3	1-13
	口頭発表	単	文学史という方法論	第8回日中学者中国古代史論壇	28. 5. 20	
	口頭発表	単	山田方谷と閑谷学校	第122回三島中洲研究会 於：本学	28. 5. 28	
	講演	単	幕末明治期の備中備前の名士たち —三島・野崎・大原—	備中倉敷学 於：倉敷市	28. 7. 14	
	口頭発表	単	中国の近代学術	国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」 於：パリ第7大学	29. 2. 11	
山口 直孝	口頭発表	単	夏目漱石の「風流」—明治人にとっての漢詩	SRF主催国際シンポジウム「漢文脈の漱石」 於：本学	29. 3. 11	
	講演	単	英国留学時代の漱石と『夢十夜』	夏目漱石没後百年記念文化講演会&声のことばミニ劇場 於：神田外語学院アッセンブリー・ホール	28. 10. 22	
	講演	単	写生の系譜 —子規・漱石・虚子	「書教」700号記念講演会 於：明治大学紫綱館	28. 11. 27	
	図書	単	澤井常四郎『経学者平賀晋民先生』近代日本漢学資料叢書1	二松學舎大学SRF	29. 3	1-673
	論文	単	「樊噲」考—絵詞として読む『春雨物語』	『国文論叢』第51号 神戸大学	28. 9	29-37

稻田 篤信	論文	単	和刻本《世説新語補》的三種手批本	『域外漢籍研究集刊』第14輯 中華書局	28. 11	
	口頭発表	単	唐音・訓読・国字解 一平賀中南の読書論	第3回SRF研究報告会 於:本学	28. 4. 28	
	講演	単	江戸期の西行伝承 一面—秋成と竹窓の場合	第8回西行学会大会公開講演会 於:本学	28. 8. 27	
	講演	単	庶民の分度 一上田秋成と『論語』一	平成28年度「論語の学校」 於:本学	28. 11. 19	
	講演	単	平賀晋民の人と学問	SRF・三原市教育委員会共催講演会 「平賀晋民の世界」 於:三原市中央公民館中講堂	29. 3. 18	
野間 文史	図書	単	平賀中南 春秋集箋 近代日本漢籍影印叢書1	二松學舎大学SRF	29. 3	1-231
	論文	単	周易正義訓讀 一隨卦・蠱卦一	『東洋古典學研究』第41集 廣島大學東洋古典學研究會	28. 5	97-113
	論文	単	周易正義訓讀 一臨卦・觀卦一	『東洋古典學研究』第42集 廣島大學東洋古典學研究會	28. 10	25-39
	論文	単	平賀中南『春秋稽古』初探	『二松』第31集 二松學舎大学大学院紀要	29. 3	5-26
	講演	単	平賀晋民と四書五經	SRF・三原市教育委員会共催講演会 「平賀晋民の世界」 於:三原市中央公民館中講堂	29. 3. 18	
小方 伴子	論文	単	関脩齋『国語略説』に於ける『国語』道春点改訓の試みとその講述表現	『日本漢文学研究』第12号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	29. 3	1-25
加藤 国安	図書	共	『杜甫全訳詩注』(一)	講談社学術文庫	28. 6	
	論文	単	京極高朗(琴峰)公と漢詩	『第14回全国藩校サミット丸亀大会』冊子	28. 11	16-17
	論文	単	絵も及ばない高潔の人、岡本黄石	『世田谷区立郷土資料館 資料館だより』No.66	29. 3	1-7
	講演	単	京極高朗(琴峰)公と漢詩	第14回全国藩校サミット丸亀大会	28. 11. 27	
パラモア・キリ	口頭発表	単	20世紀政治儒教の世界的様子	国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」 於:パリ第7大学	29. 2. 11	
朴 暎美	図書	共	日本漢文学研究動向1	成均館大学校出版部	28. 8	
	図書	共	東アジア学入門	成均館大学校出版部	28. 8	
	図書	共	近代転換期東アジア伝統知識人の対応と新しい思想の形成	成均館大学校出版部	28. 8	
	図書	共	潘佩珠自敍傳	成均館大学校出版部	28. 8	
	図書	共	渋沢栄一は漢学とどう関わったか	ミネルヴァ書房	29. 2	
	論文	単	‘完生’：近代における日本漢学者の老年に関する認識—三島中洲を中心として	『漢文学論集』44 横濱漢文学会	28. 6	
	論文	単	日帝強占期における経学研究の一面 一経学院雑誌を中心として	『漢文学論集』46 横濱漢文学会	29. 2	
	口頭発表	単	近代期における韓国経学研究について	成均館大学校東アジア学術院人文韓国(HK)研究所 国際学術会議	28. 8. 23	
	口頭発表	単	近代期における朝鮮と日本の女性用漢文教材中の‘女性’	韓国古典女性文学会秋季学術大会	28. 10. 29	
	口頭発表	単	細井肇の朝鮮古書刊行事業について	大東漢文学会秋季学術大会	28. 11. 7	
	講演	単	文明開化期日本の漢学者三島中洲	釜山大学校佔畢斎研究所	29. 1. 18	
	口頭発表	単	渋沢栄一を偲ぶ朝鮮の人々	SRF・公益財団法人渋沢栄一記念財団主催シンポジウム	29. 1. 30	

王 宝 平	図書	単	日本藏晚清中日朝筆談資料：大河内文書全8冊	浙江古籍出版社	28. 12	
	論文	単	「失われた20年」における中国の日本語教育と日本研究	『失われた20年と日本研究のこれから・失われた20年と日本社会の変容』国際日本文化研究センター	29. 3	
	論文	共	由日本對清交涉看晚清外交二重性—以1895年「天津條約」事前交涉為中心	『浙江外国语学院学報』	28. 5	
劉 岳 兵	図書	共	日本儒学与思想史研究—王家驥先生紀念專輯	天津人民出版社	28. 9	
	論文	単	魏源的『聖武記』在近代日本	閻純德主編『漢学研究』第20集 学苑出版社	28. 5	
	論文	単	近代日本思想家西晋一郎的中国儒学論	『歴史教学』2016年第14期 歴史教学社（天津）	28. 7	
	論文	単	船山史論与近代日本知識建構	『深圳大学学報』2017年第1期	29. 1	
	論文	単	津田左右吉的論著及学术思想在中国的影響—以民国時期為中心	『文献』2017年第2期	29. 3	
	小文	単	主持人語（「文明対話与文化比較」欄）	『深圳大学学報』2017年第1期	29. 1	
合 山 林 太 郎	論文	単	大槻磐溪と福澤諭吉：いわゆる「楠公権助論」をめぐる応酬について	前田雅之・青山英正・上原麻有子編『幕末明治—移行期の思想と文化』勉誠出版	28. 5	21-41
	論文	単	近世期日本における袁中郎の受容とテキストの問題：山本北山一派の動向を中心	『雅俗』15号 九州大学	28. 7	13-23
	論文	単	近世漢詩に描かれた壬辰戦争	井上泰至編『近世日本の歴史叙述と対外意識』勉誠出版	28. 7	459-477
	口頭発表	単	幕末期の諫早における医と漢詩：野口良陽、松陽父子を例に	漢蘭折衷に関する総合的研究シンポジウム	29. 3. 9	
	口頭発表	単	蔵書を用いた漱石漢詩読解の試み—所載文献に焦点をあてて	SRFシンポジウム「漢文脈の漱石」於：本学	29. 3. 11	
	小文	単	中国・西安で日本漢文学研究のグローバル化について考える：第8回和漢比較文学学会海外特別例会発表についての報告	『雙松通信』Vol. 21 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	28. 7	11-13
上地 宏一	論文	共	「日本漢文文献画像データベース（仮）」の構築について	第22回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」発表論文集	29. 2	

氏名	区分	単／共	題目	掲載誌・出版社等	年月	頁数
町 泉寿郎	図書	共	泊園書院と漢学・大阪・近代日本の水脈 (関西大学東西学術研究所研究叢刊)	関西大学出版部	29. 8	
	図書	単	柿村重松『松南雜草』	二松學舍大学SRF	29. 10	1-276
	図書	共	日本医家伝記事典 一宇津木昆台『日本医譜』一	日本内経医学会・二松學舍大学SRF・北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部	30. 3	解題 595-617
	論文	単	18世紀瀬戸内地域の医学に関する小考 一 讀岐尾池家、備中赤木家の資料を中心に	『香川短期大学紀要』第45号 香川短期大学	29. 6	15-28
	論文	単	芳野金陵およびその門人知友と清国公使館員の新出の筆談録	『二松學舍創立百四十周年記念論文集』学校法人二松學舍	29. 10	251-288
	資料紹介	単	翻印『昌平学分類雑載』 一其一	『日本漢文学研究』第13号 二松學舍大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	30. 3	133-180
	資料紹介	単	白岩龍平書簡(野崎萬三郎・野崎武吉郎宛)の紹介	『二松學舍大学東アジア学術総合研究所集刊』第48集 二松學舍大学東アジア学術総合研究所	30. 3	59-120
	講演	単	幕末遺老芳野金陵と清国公使館員の新出の筆談録	東亞筆談読書会 於：浙江大学	29. 5. 5	
	口頭発表	単	前近代と近代の学問の断絶 易と漢方	易学連合会主催第5回シンポジウム 「易学の展開と近代 易を現代に生かす」 於：本学	29. 6. 25	
	口頭発表	単	日本の大学における古典学の現況	SRFシンポジウム「文学部の現在」 於：本学	29. 7. 8	
	口頭発表	単	漢学・漢学者・漢学塾に関する持続可能なコンソーシアムづくりをめざして	SRF・早稲田大学中国古籍文化研究所 共催「漢学者記念館会議」 於：本学	29. 7. 29	
	口頭発表	単	日本近代の「漢学」教育・研究をめぐって —制度	大連大学創立30周年記念シンポジウム 於：大連大学	29. 9. 16	
	口頭発表	単	近代日本漢学と東アジア	SRF・成均館大学校国際学術交流会 於：本学	29. 9. 21	
	口頭発表	単	「近代日本の知の形成と漢学」プロジェクトの活動状況	SRF・鄭州大学国際学術交流会 於：本学	29. 9. 22	
	講演	単	以医学史観点審視日本漢学特色	東亞漢学国際学術研討会 於：佛光大学	29. 10. 7	
	口頭発表	単	蝦夷地・小笠原島における漢学との関わり	東アジア日本研究者協議会第2回国際学術大会 於：南開大学	29. 10. 29	
	口頭発表	単	Modification of Kanbun Studies in Meiji Japan	Confucian Modernity as Japanese Experience in East Asian Context 於：京都大学	29. 11. 3	
	口頭発表	単	近代日本の教科書と漢文	SRF・北京第二外国语大学・釜山大学 校共催シンポジウム 於：北京第二外国语大学	29. 11. 5	
	口頭発表	単	日本漢学の過去と現在	SRF・魯東大学共催シンポジウム 於：魯東大学	29. 11. 7	
	講演	単	岡山の実業家と漢学者	公益財団法人童王会館主催講演会 於：野崎家別邸（倉敷市）	29. 11. 9	
	口頭発表	単	芳野金陵及びその門人知友と清国公使館員による新出の筆談録	浙江大学主催・SRF共催シンポジウム 「東アジア筆談研究」 於：浙江大学	29. 11. 18	
	講演	単	西村天因の近代漢学における意義について	第27回懐徳堂研究会 於：大阪大学	29. 12. 3	
	口頭発表	単	小笠原開拓碑をめぐる明治期漢学者たち	第12回台湾大学日本語文創新国際学術研討会 於：台湾大学	29. 12. 9	
	講演	単	山田方谷門下の原田一道と三島中洲	山田方谷の軌跡（～奇跡～）主催講演会 於：笠岡市中央公民館	30. 1. 28	
	口頭発表	単	近代岡山の実業家と漢学者	SRF・公益財団法人渋沢栄一記念財団 主催シンポジウム 於：新溪園（倉敷市）	30. 1. 29	
	口頭発表	単	レオン・ド・ロニー旧蔵の和漢古典籍について	SRFレオン・ド・ロニー資料調査報告会 於：ライデン大学	30. 2. 24	
	口頭発表	単	近代日本の漢学と渋沢栄一の公益事業	SRF近代漢学ワークショップ 於：ボルドー大学	30. 2. 28	

江藤 茂博	口頭発表	単	日本の文学部形成	SRFシンポジウム「文学部の現在」於：本学	29. 7. 8	
	口頭発表	単	日本近代の「漢学」教育・研究をめぐって—文芸	大連大学創立30周年記念シンポジウム於：大連大学	29. 9. 16	
	口頭発表	単	日本アニメーション史と東アジア	SRF・北京第二外国语大学・釜山大学校共催シンポジウム 於：北京第二外国语大学	29. 11. 5	
	講演	単	近代日本の高等教育・学問形成と漢学そして財界人	SRF・魯東大学共催シンポジウム 於：魯東大学	29. 11. 7	
	口頭発表	単	近代日本の漢学と文学・教育・学問—教育を中心に—	SRF近代漢学ワークショップ 於：ボルドー大学	30. 2. 28	
田中 正樹	論文	単	三島中洲の学術 —『尚書私録』と『大學』—	『陽明学』第28号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所陽明学研究室	30. 3	
	口頭発表	単	易学の展開（近世以降）	易学連合会主催第5回シンポジウム「易学の展開と近代 易を現代に生かす」 於：本学	29. 6. 25	
	口頭発表	単	三島中洲の経学と『私録』	陽明学研究室主催三島中洲シンポジウム 於：本学	29. 10. 21	
牧角 悅子	論文	単	文学史という方法論	第8回日中学者古代史論壇論文集『中国史学の方法論』汲古書院	29. 5	
	論文	単	花は「咲く」のか「笑う」のか—日中文化交流の一侧面—	『日本漢文学研究』第13号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	30. 3	31-61
	講演記録	単	古典とその「解釈」—『詩經』を例として—	『二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊』第48集 二松学舎大学東アジア学術総合研究所	30. 3	41-57
	口頭発表	単	易学の形成（古代～中世まで）	易学連合会主催第5回シンポジウム「易学の展開と近代 易を現代に生かす」 於：本学	29. 6. 25	
	口頭発表	単	研究としての漢学—漢学から中国学へ—	大連大学創立30周年記念シンポジウム於：大連大学	29. 9. 16	
	口頭発表	単	近代日本における中国古典学と「漢文」—訓読から音読へ—	SRF・北京第二外国语大学・釜山大学校共催シンポジウム 於：北京第二外国语大学	29. 11. 5	
	口頭発表	単	日本における儒教 —その発展過程と特徴—	SRF・魯東大学共催シンポジウム 於：魯東大学	29. 11. 7	
	口頭発表	単	レオン・ド・ロニー旧蔵の漢籍について	SRFレオン・ド・ロニー資料調査報告会 於：ライデン大学	30. 2. 24	
	口頭発表	単	近代日本における漢字の変容	SRF近代漢学ワークショップ 於：ボルドー大学	30. 2. 28	
山口 直孝	図書	共	歴史の総合者として一大西巨人未刊行批評集成	幻戯書房	29. 11	
	図書	共	漢文脈の漱石	二松學舎大学SRF	30. 3	105-126
	図書	共	大西巨人 文学と革命（二松學舎大学学術叢書）	翰林書房	30. 3	351-375
	論文	単	〈白樺派〉という安全装置 一民主主義文学者たちが否認したもの	『有島武郎研究』第20号 有島武郎研究会事務局	29. 5	39-50
	口頭発表	単	物としての〈資料〉が語ること—大西巨人・横溝正史旧蔵資料の調査から	昭和文学会第60回研究集会 於：実践女子大学渋谷キャンパス	29. 5. 13	
	分担執筆	共	江戸つ子／江戸つ児・人格・拵へもの・煙突4項目	小森陽一・飯田祐子・五味潤典嗣・佐藤泉・佐藤裕子・野網摩利子編『漱石辞典』翰林書房	29. 5	
稻田 篤信	書評	単	高橋俊和著『堀景山伝考』	『北陸古典研究』32	29. 12 (予定)	
野間 文史	図書	単	春秋左伝正義譯注第一冊（序・隱公・桓公篇）	明徳出版社	29. 10	
	図書	単	春秋左伝正義譯注第二冊（莊・閔・僖公篇）	明徳出版社	29. 10	
	論文	単	周易正義訓讀 一噬嗑卦・賁卦—	『東洋古典學研究』第43集 廣島大學東洋古典學研究會	29. 5	33-50
	論文	単	平賀中南『春秋稽古』所引日本人学者の説について	『二松學舎創立百四十周年記念論文集』学校法人二松學舎	29. 10	221-249

加藤 国安	論文	単	幕末の一儒の載道精神—伊豫松山藩儒・大原觀山旧蔵書考	『日本中国学会報』第69集	29. 10	
	口頭発表	単	長野豊山について—鳴りわたる嘉声	第67回先儒祭墓前講話	29. 10. 22	
	小文	単	移行期の日本漢文 一人類の転換点の集積基盤	『あおぎり』 名古屋大学文学研究科	29. 4	
徐 興慶	口頭発表	単	「中期水戸学」形成の試論	SRP第5回テーブルスピーチ	29. 7. 11	
朴 噎美	図書	共	在朝日本人日本語文学史序説	亦樂出版社	29. 6	
	図書	共	東西洋古典人物誌	宝庫社	29. 9	
	論文	単	日本殖民地期朝鮮における経学研究一様相	『漢文学論集』46 権域漢文学会	29	
	口頭発表	単	対馬における漢学との関わり	東アジア日本研究者協議会第2回国際学術大会 於：南開大学	29. 10. 29	
王 宝平	雑誌	共	東方研究集刊 第1輯 主編	浙江工商大学出版社	29. 8	
	図書	共	東亜比較文化論集 主編	西南師範大学出版社	29. 9	
	口頭発表	単	中国の高等教育機関における日本語教育・日本研究の現状と展望	SRFシンポジウム「文学部の現在」 於：本学	29. 7. 8	
	小文	単	2016年中国大学教員“日本漢学”上級セミナー開催報告	『雙松通信』Vol. 22 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	29. 4	22-24
劉岳兵	論文	単	近代日本の漢籍翻訳及其意義—以田岡嶺雲的“和訳漢文叢書”為中心	『南開学報』2017年第4期	29. 8	
	論文	単	清末維新派の明治維新論及其對日本研究的啓示	『日本問題研究』2017年第4期	29. 8	
合山林太郎	図書	共	河野貴美子・Wiebke Denecke・新川登龜男・陣野英則・谷口真子・宗像和重編『日本「文」学史』第2冊	勉誠出版	29. 6	339-349
	口頭発表	単	近世日本における袁宏道受容史の再検討：詩を中心に（袁宏道対江戸时代日本文人影响的再考察：以詩為中心）	第二屆南京大學域外漢籍研究國際學術研討會 於：南京大學域外漢籍研究所	29. 7. 1	
	口頭発表	単	野口寧斎と在清日本人のネットワーク：文廷式との交流・蔵書形成	第10回和漢比較文学会海外特別例会・和漢比較文学会 於：西北大学外国语学院	29. 8. 31	

2-5 研究成果 研究員

平成27年度

氏名	区分	単／共	題目	掲載誌・出版社等	年月	頁数
徳重 公美	口頭発表	単	徂徠学における道徳の再検討	SRF第1回研究報告会 於：本学	28.1.21	
	口頭発表	単	荻生徂徠の思想における「聖人」の位置づけと丸山真男の「近代」	SRF主催国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於：倉敷市	28.3.12	

平成28年度

氏名	区分	単／共	題目	掲載誌・出版社等	年月	頁数
山口 智弘	論文	単	徳川中期における古典解釈学と思想 一伊藤仁斎と荻生徂徠	『東京大学』	28.4	1-347
	論文	単	安井息軒の経世論 一かの思想の素描として	『日本漢文学研究』第12号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	29.3	51-77
	口頭発表	単	「反近代」の中の「近代」 一安井息軒の経世論と近代日本	東アジア日本研究者協議会第1回国際学術大会 於：仁川（韓国）	28.12.1	
	書評	単	Kiri Paramore. <i>Japanese Confucianism: A Cultural History.</i>	『日本漢文学研究』第12号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	29.3	177-183

平成29年度

氏名	区分	単／共	題目	掲載誌・出版社等	年月	頁数
商 兆璽	論文	単	「近代性」についての一試論	『思想史研究』第23号 日本思想史・思想論研究会	29.5	153-162
	翻訳	単	徐興慶著 「『大日本史』の史観と「水戸学」の再構築」	『日本漢文学研究』第13号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	30.3	1-30
	口頭発表	単	田中正造の思想世界：神、天、聖、無、天国	SRF次世代研究発表会 於：本学	29.7.8	
	対談抄録	共	〈対談〉 日本の近代をつくった東洋のロゴス	『季刊日本主義』第39号 白陽社	29.9	30-43

2-6 研究成果 研究支援者

平成27年度

氏名	区分	単／共	題目	掲載誌・出版社等	年月	頁数
川邊 雄大	図書	共著	『浄土真宗と近代日本—東アジア・布教・漢学』	勉誠出版	28.3	
	論文	単	西本願寺の海外布教と鎮西別院	『シルクロードと近代日本の邂逅 西域古代資料と日本仏教』 勉誠出版	28.3	483-500
	論文	単	国士館大学体育学部における中国語教育の現状と課題	『国士館大学経済研紀要』第28号 国士館大学政経学部附属経済学研究所	28.3	61-75
	資料紹介	単	明治期の琉球における真宗法難事件について	『東アジア文化交渉学会第7回シンポジウム 連携の「東アジア時代」への時代—文化交渉学的アプローチを軸に』(下) 東アジア文化交渉学会	27.5	548-555
	小文	単	科研費「北九州の真宗を例とした仏教近代化に関する基礎的研究」について	黄運喜編『台湾仏教研究』第4巻第1期	27.6	19
	書評	単	白須淨眞編『大谷光瑞とスヴェン・ヘディン—内陸アジア探検と国際政治社会』	『書論』第41号 書論編集室	27.8	251-253
	書評	単	『居留民の上海—共同租界行政をめぐる日英の協力と対立』について	『西洋史学』258号 日本西洋史学会	27.9	79-81
	小文	共	第6回東アジア文化交渉学会年次大会に参加して	『雙松通訊』No.20 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	27.8	5-7
	資料紹介	単	白華文庫蔵・小栗栖香頂「水築小相伝」について	『二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊』第46集 二松学舎大学東アジア学術総合研究所	28.3	109-120
	口頭発表	単	明治期の琉球における真宗法難事件について	東アジア文化交渉学会「東アジア文化交渉学会第7回国際シンポジウム 於：神奈川県開成町	27.5.10	
	口頭発表	単	科研費「北九州の真宗を例とした仏教近代化に関する基礎的研究」終了報告	淡窓研究会 於：謙堂文庫	27.6.6	
	口頭発表	単	書評：藤田拓之『居留民の上海』について	日本上海市研究会例会 於：日本大学通信教育部	27.6.13	
	口頭発表	単	幕末明治期における真宗僧と咸宜園	僧侶・教師研修会 於：沖縄県宜野湾市・東本願寺沖縄別院	27.6.15	
	口頭発表	単	明治期琉球における真宗法難事件をめぐつて—東本願寺と内務省の対応を中心として—	仏教史学会第66回学術大会 於：京都府・花園大学拈花館	27.11.22	
清水 信子	口頭発表	単	白岩龍平とその人脈	三島中洲研究会 於：倉敷市倉敷公民館	28.1.24	
	口頭発表	単	真宗僧による漢学受容と日中文化交流	大東文化大学人文科学研究所平成27年度座談会 於：東京・大東文化会館	28.1.30	
	口頭発表	単	維新変革と日本思想への影響	国士館大学政治経済学部経済研究所研究会 於：国士館大学	28.2.16	
	口頭発表	単	白岩龍平とその周辺	SRF国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於：倉敷市	28.3.13	
	論文	単	『胎産新書』諸本について—中島家所蔵本を中心として—	『中島家の歴史』 思文閣出版	27.11	138-158
	目録	単	「杏雨書屋乾々斎文庫蔵曲直瀬家関係資料目録」	『曲直瀬道三と近世日本医療社会』 武田科学振興財団杏雨書屋	27.10	97-168
	目録	単	「神内家蔵書目録（医書・古典籍之部）」	『日本漢文学研究』第11号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	28.3	189-206
	口頭発表	単	漢蘭折衷医学の人々とその蔵書	第116回日本医史学会学術大会 於：総業会館	27.4.15	
	口頭発表	単	備前備中、讃岐における近世医家所蔵資料について	国文研主導共同研究「アジアの中の日本古典籍—医学・理学・農学書を中心として—」第2回研究会 於：国文学研究資料館	27.6.27	
	口頭発表	単	江戸後期の備中・備前の医家と漢学	SRF主催国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於：倉敷市	28.3.13	
	分担執筆	共	企画展「芳野金陵と幕末日本の儒学」図録	大学資料展示室運営委員会編	27.10	
	分担執筆	共	企画展「解体新書展—ニッポンの「医」の歩み1500年」図録	公益財団法人東洋文庫	28.1	

平成28年度

氏名	区分	単/共	題目	掲載誌・出版社等	年月	頁数
川邊 雄大	論文	単	송국과 일본의 교류와 『동명시선』(東瀛詩選)』 편찬에 관한 고찰 가와베 유타 (韓國語)	『일본 한문학 연구 동향동아시아 자료증서』 제4장 성균관대학교, 동아시아 근대학문학연구부 편역	28. 8	127-160
	論文	単	日本人居留民と東西本願寺	『アジア遊学』 205号 勉誠出版	29. 2	120-129
	予稿	単	大谷光瑞の対外政策と研究者たち—中尾万三・岡西為人を例として—	『東アジア文化交渉学会第8回国際シンポジウム 東アジア交渉学の新しい歩み』 (下)	28. 5	919-920
	新刊紹介	単	『浄土真宗と近代日本—東アジア・布教・漢学—』について	『台湾佛教研究』 (顧正宗編) 第5巻第1期	28. 5	8-10
	小文	単	科研費「北九州の真宗を例とした仏教近代化に関する基礎的研究」終了報告	『淡窓研究会会報』第8号 淡窓研究会	28. 6	3-5
	小文	単	咸宜園研究の現状と課題について	『淡窓研究会会報』第8号 淡窓研究会	28. 6	9-10
	小文	共	第7回東アジア文化交渉学会年次大会に参加して	『雙松通訊』 No.21 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	28. 7	8-10
	小文	単	本学教職員著書紹介	『二松学舎大学附属図書館 季報』 第98号 二松学舎大学附属図書館	28. 12	7
	資料紹介	単	白華文庫蔵・平野五岳「五岳道人 古竹邨舍詩鈔」について	『日本漢文学研究』第12号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	29. 3	153-176
	研究ノート	単	「応接筆記」・「藩庁応接記」・「廿二日対辨記」について—真宗法難事件における東本願寺と琉球藩庁の会談記録—	『國立館大学経済研紀要』第29号 國立館大学政経学部附属経済学研究所	29. 3	47-85
	口頭発表	単	大谷光瑞の対外政策と研究者たち 一中尾万三・岡西為人を例として—	東アジア文化交渉学会 東アジア文化交渉学会第8回国際シンポジウム 於: 関西大学	28. 5. 8	
	口頭発表	単	咸宜園研究の現状と課題について	淡窓研究会 於: 本学	28. 6. 4	
	口頭発表	単	大谷光瑞の思想と对外観の形成について	近代仏教史研究会 於: 新潟大学東京事務所	28. 6. 5	
	口頭発表	単	國立館大学体育学部における中国語教育の現状と課題	中国語文学会第153回国定例学術研究発表会 於: 東京語文学院日本語センター	28. 6. 19	
	口頭発表	単	真宗僧と咸宜園	國立館大学政治経済学部経済研究所研究会 於: 國立館大学	29. 3. 9	
清水 信子	口頭発表	単	海保漁村の学問—幕末日本の考証学	SRF主催・上海師範大学共催シンポジウム 於: 上海師範大学	28. 12. 25	
	口頭発表	単	江戸後期から明治期における考証学—海保漁村を中心として	国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」 於: パリ第7大学	29. 2. 11	
	口頭発表	単	近世における地方医家の学問修業	「漢蘭折衷医学に関する総合的研究」シンポジウム 於: 本学	29. 3. 10	

平成29年度

氏名	区分	単/共	題目	掲載誌・出版社等	年月	頁数
川邊 雄大	資料紹介	単	常福寺蔵・清国書籍販売目録三種について—『増補抱芳閣書目』・『醉六堂発兌書籍目』・『湖北官書処書目』—	『日本漢文学研究』第13号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	30. 3	181-234
	資料紹介	単	早稲田大学図書館蔵・平野五岳『五岳詩集』(市島春城旧蔵)について	『咸宜園教育研究センター研究紀要』第7号 日田市教育庁咸宜園教育研究センター	30. 3	49-62
	資料紹介	単	真宗法難事件関係資料「琉球国内務省出張所往復書翰往復並応接記録」について	『國立館大学経済研紀要』第30号 國立館大学政経学部附属経済学研究所	30. 3	47-187
	小文	共	第8回東アジア文化交渉学会年次大会に参加して	『雙松通訊』 No.22 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	29. 4	17-19
	口頭発表	単	中国ビジネスの視点から見た日清貿易研究所	東アジア文化交渉学会第9回国年次大会 於: 北京外国语大学	29. 5. 14	
	口頭発表	単	19世紀の真宗僧と漢学—東本願寺の辺境・海外布教を例として	東アジア日本研究者協議会第2回国際学術大会 於: 南開大学	29. 10. 29	
	口頭発表	単	戦前期に日本国内(内地)・台湾・朝鮮で使用された漢文教科書について	SRF・檀国大学校国際学術交流会 於: 本学	30. 1. 15	

	口頭発表	単	漢学者加藤虎之亮の事蹟と旧蔵資料—宮内省関係文書を中心に—	三島中洲研究会 於：本学	30. 3. 19	
清水 信子	資料紹介	単	二松學舎大学SRF所蔵『孝經』諸本目録	『日本漢文学研究』第13号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	30. 3	235-262
	資料紹介	単	二松學舎大学SRF所蔵加藤復齋旧蔵資料目録(稿)	『日本漢文学研究』第13号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	30. 3	263-304
	解説	共	三島中洲と近代—其五一 二松學舎の漢学教育	大学資料展示室運営委員会編 二松學舎大学附属図書館	29. 11	5-24
	小文	単	国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育—備中倉敷から東アジアの近代教育を考える—」に参加して	『雙松通訊』No.22 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	29. 4	11-13
	口頭発表 抄録	単	赤木家の人々とその蔵書	『日本医史学雑誌』第63巻第2号日本医史学会)	29. 6	
	口頭発表	単	赤木家の人々とその蔵書	第118回日本医史学会学術大会 於：京都大学	29. 6. 10	
	口頭発表	単	二松學舎の漢学教育	創立140周年記念特別展「三島中洲と近代 其五一二松學舎の漢学教育」講演会	29. 12. 16	

平成27年度

氏名	区分	単/共	題目	掲載誌・出版社等	年月	頁数
加畠 聰子	抄録発表	単	田村（津田）玄仙による学校設立の試み	『日本医史学雑誌』第60巻第4号 日本医史学会	27. 4. 25-26	
	口頭発表	単	水戸藩医・原南陽の医学教育	第6回水戸徳川家旧蔵史料調査報告会	27. 8. 1	
	口頭発表	単	近世日本における医学公教育の形成—経穴学教育を中心に—	第43回日本伝統鍼灸学会学術大会課題研究発表 於：タワーホール船堀	27. 10. 24	
	口頭発表	単	小坂元祐の経穴書	中日中医經典研究国際学術研討会 於：南京中医薬大学	28. 3. 21	
武田 祐樹	論文	単	林羅山の『大学』解釈をめぐって—『大學諺解』と『大學和字抄』の比較検討を通して見た林羅山の朱子学—	『日本漢文学研究』第11号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	28. 3	27-54
	口頭発表	単	江戸初期(17世紀前半)における朱子学および儒者の意義—林羅山を中心に—	SRF第1回研究報告会 於：本学	28. 1. 21	
	分担執筆	共	企画展「解体新書展—ニッポンの「医」の歩み1500年」図録	公益財団法人東洋文庫	28. 1	
楊 夾	論文	単	近代における漢文小説の「還流」—依田学海『譚海』と『東海遺聞』の関係を中心に—	『神話と詩』第14号 日本開一多学会	28. 3	33-58
	口頭発表	単	近代における漢文小説の「還流」—依田学海『譚海』と『東海遺聞』の関係を中心に—	日本開一多学会第十九回研究大会 於：東洋大学	27. 7	
	口頭発表	単	依田学海と中国古典『聊齋志異』—「小野篁」と「蓮花公主」との比較研究を中心に—	国際シンポジウム「近代東アジアの思想と文化—中国・日本の文化交流の視点から」 於：嘉興学院	27. 11	

平成28年度

氏名	区分	単/共	題目	掲載誌・出版社等	年月	頁数
阿部 和正	論文	単	『彼岸過迄』における「好奇心」の行方—教科書としての〈新アラビア夜話〉受容—	『日本文学』第65巻第12号 ひつじ書房	28. 12	1-12
	口頭発表	単	内面化する著作—『三四郎』における学生たちの言論—	日本近代文学会2016年度秋季大会 於：福岡大学	28. 10	
	口頭発表	単	漢学塾のなかの漱石—講義録・証言からたどる「教養」形成—	SRF主催国際シンポジウム「漢文脈の漱石」 於：本学	29. 3. 12	
加畠 聰子	論文	単	江戸医学館官立化時期における小坂元祐の経穴学教育	『伝統鍼灸』第43巻1号 (86号) 日本伝統鍼灸学会	28. 7	
	口頭発表	単	山崎宗運の「骨度折量尺」	第118回日本医史学会総会・学術大会 於：広島県医師会会館	28. 5. 21	
	講義	単	江戸時代の経穴学教材—銅人形を題材として—	北里大学東洋医学総合研究所主催「第11回鍼灸学校教員のための古典講座」 於：北里大学白金キャンパス	28. 8. 6-7	
	口頭発表	単	山崎宗運の『天聖銅人臉穴鍼灸図經彙攷』に見える加筆について	世界鍼灸学会連合会2016世界大会 (WFAS Tokyo/Tsukuba 2016) 於：つくば国際会議場	28. 11. 5-6	
	口頭発表	単	近世後期の水戸藩における医学公教育の形成—本間家の医学を基軸として	東アジア日本研究者協議会第1回国際学術大会 於：韓国・仁川	28. 12. 1	
	講義	単	科学史 対象：中国人留学生	日本・アジア青少年サイエンス交流計画「さくらサイエンスプラン」 於：本学	28. 12. 7	
	口頭発表	単	江戸中後期の医学公教育における漢蘭折衷	「漢蘭折衷医学に関する総合的研究」シンポジウム 於：本学	29. 3. 10	
武田 祐樹	分担執筆	共	企画展「三島中洲と近代 其四」図録	大学資料展示室運営委員会	28. 5	
平崎 真右	論文	単	田岡嶺雲における「同情」観：雑誌『青年文』を中心とした論理構造と言説環境	『日本漢文学研究』第12号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	29. 3	79-104

楊夾	論文	単	評伝から漢文小説へ—依田学海『譚海』にみる『名家略伝』の翻案方法—	『二松』第31集 二松學舎大学大学院文学研究科	29. 3	29-62
	論文	単	依田学海の『蝦夷風俗彙纂』受容 —「蝦夷三孝子二貞婦」の典拠を中心に—	『東アジア学術総合研究所集刊』第47集 二松學舎大学東アジア学術総合研究所	29. 3	69-101
	研究ノート	単	依田学海と『聊齋志異』—「小野篁」と「蓮花公主」との比較研究を中心に—	『日本漢文学研究』第12号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	29. 3	119-151
	小文	単	国際シンポジウム「近代東アジアの思想と文化—中国・日本の文化交流の視点から」に参加して	『雙松通信』Vol. 21 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	28. 7	16-18

平成29年度

氏名	区分	単/共	題目	掲載誌・出版社等	年月	頁数
阿部 和正	論文	単	漢学塾のなかの漱石—漱石初期文芸における「漢学者」	『漢文脈の漱石』 翰林書房	30. 3	127-142
	紹介	単	漱石漢詩と日本漢詩文を知るためのブックガイド	『漢文教室』第203号 大修館書店	29. 5	16-17
	口頭発表	単	内向化する「文學者」—『野分』における演説と述作の有り様	全国大学国語国文学会第115回研究発表大会 於：早稲田大学	29. 6. 4	
	小文	単	近代文学研究班 研究報告	『雙松通信』Vol. 22 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	29. 4	31-32
加畑 智子	口頭発表	単	山崎宗連撰「大椎攷」についての比較検討	第68回日本東洋医学会 於：名古屋国際会議場	29. 6. 3	
	口頭発表	単	小坂元祐撰『十四經絡發揮廣要』について	第118回日本医史学会、京都大学芝蘭会館	29. 6. 11	
	口頭発表	単	19世紀日本の経穴学にみる漢蘭折衷	SRR次世代研究発表会 於：本学	29. 7. 8	
	口頭発表	単	江戸時代の「経絡人形」についての一考察—北里大学東洋医学総合研究所所蔵「経絡人形」を中心に—	第45回日本伝統鍼灸学会 於：石川県立音楽堂 ※日本伝統鍼灸学会発表奨励賞受賞	29. 10. 25	
	口頭発表	単	曲亭馬琴の日記にみる近世後期江戸における医学派の諸相	第12回台湾大学日本語文創新国際學術研討会 於：台湾大学	29. 12. 9	
	口頭発表	単	山崎宗連「骨度折量法尺式」と梯謙「脊尺」	第5回鍼灸医学史研究発表会 於：北里大学白金キャンパス	30. 1. 7	
武田 祐樹	学位論文	単	林羅山の学問形成とその特質—古典注釈書と編纂事業を中心に	二松學舎大学	30. 3	
	口頭発表	単	林羅山と清原宣賢の校勘学—『三略直解』をめぐって	SRF次世代研究発表会 於：本学	29. 7. 8	
平崎 真右	論文	単	國士館とその時代：私塾、大正、活学の系譜	『國士館史研究年報 楓原』第9号（掲載決定） 学校法人國士館	30. 3	75-100
	論文	単	モダン、ロマン、カレーライス：「共栄堂のスマトラカレー」と「中村屋のカリー・ライス」	『フードビジネスと地域：食をめぐる文化・地域・情報・流通』 ナカニシヤ出版	30. 3	17-29
	論文	共	現代中国にみる「食」行動とその意識：メディアテクノロジー普及前後の変化に注目して	『フードビジネスと地域：食をめぐる文化・地域・情報・流通』 ナカニシヤ出版	30. 3	153-170
	口頭発表	単	近代「日本」の「表記」をめぐって：「漢字」を超える志向と文脈	SRF次世代研究発表会 於：本学	29. 7. 8	
	口頭発表	単	教学研究班による訪問調査の事例報告：成田高等学校を中心に	SRF・早稲田大学中国古籍文化研究所共催「漢学者記念館会議」 於：本学	29. 7. 29	
	口頭発表	共	現代中国にみる「食」行動とその意識：「EC」環境の浸透と「CSA」を視野に	岡山商科大学・二松學舎大学共同プロジェクトフードビジネス研究会主催「流通とコミュニケーションからみるフードビジネス」 於：本学	30. 3. 24	
	小文	単	教学研究班 アンケート調査：経過報告	『雙松通信』Vol. 22 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室	29. 4	27-30
	論文	単	漢文白話体小説の書き手「秋風道人」とは誰か—依田学海の創作活動的一面—	『人文論叢』第99輯	29. 10	138-151
	学位論文	単	依田学海研究—漢文小説を中心に—	二松學舎大学	30. 3	

楊 爽	小文	単	SRF学術研究班・研究報告 『雙松通信』Vol. 22 二松学舎大学東 アジア学術総合研究所日本漢文教育研 究推進室	29. 4	25-26
	口頭発表	単	『譚海』における「実録物」の受容と変容 —「孝義復讐」を事例として— メディア表現研究会第三回例会研究発 表会 於：本学	29. 6	
	口頭発表	単	漢文白話体小説の書き手「秋風道人」とは 誰か 依田学海の創作活動の一面 SRF次世代研究発表会 於：本学	29. 7. 8	
	口頭発表	単	依田学海『譚海』の海外への影響をめぐつ て 第12回台湾大学日本語文創新国際学術 研討会 於：台湾大学	29. 12. 9	

3 対外活動

3-1 海外調査

年度	期間	渡航国	主な調査機関	調査者		
27	28. 2. 10-18	フランス オランダ	リール市図書館（リール） ライデン大学（ライデン）	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎		
				事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子		
				支援事業連携者・浙江大学講師 ヴィグル・マティアス		
28	29. 2. 9-16	フランス	ギメ東洋美術館（パリ） リール市図書館（リール）	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博		
	29. 2. 9-17			事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子		
				事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎		
				支援事業連携者・浙江大学講師 ヴィグル・マティアス		
				研究支援者・文学部非常勤講師 清水 信子		
29	29. 8. 15-20	フランス	リール市図書館（リール）	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎		
	29. 10. 30-11. 3			事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹		
				支援事業連携者・文学部講師 ヴィグル・マティアス		
	29. 11. 12-13	中国	北京師範大学 他	研究支援者・文学部非常勤講師 清水 信子		
	29. 12. 8	台湾	中国国家図書館善本室 故宮博物院	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎		
				研究助手 楊 爽		
				研究助手 加畠 聰子		
	29. 12. 10	台湾	国家図書館	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎		
				研究助手 楊 爽		
				研究助手 加畠 聰子		

3-2 国内調査

年度	期間	行 先	主な調査機関	調査者
27	27. 10. 2-5	福岡市	福岡県立修猷館高等学校	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
	27. 11. 20-23	倉敷市 他	野崎家塩業歴史館 他	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28. 1. 24-25	大阪市	公益財団法人武田科学振興財団 杏雨書屋	研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大
	28. 1. 25-1. 27	吹田市	関西大学	事業推進担当者・文学部教授 小方 伴子
	28. 2. 23-2. 25	大阪府	大阪市立中央図書館 他	研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大
	28. 3. 2-4	大阪市 他	公益財団法人武田科学振興財団 杏雨書屋 他	研究助手 加畠 智子
	28. 3. 3-4	井原市	興譲館高等学校 等	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28. 3. 8	港区	外務省外交史料館	研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大
	28. 3. 11	高松市	高松市歴史資料館	研究支援者・文学部非常勤講師 清水 信子
	28. 3. 15	成田市	成田山仏教図書館	研究助手 楊 爽
	28. 3. 16	目黒区	防衛研究所	研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大
	28. 3. 18	千代田区	国立国会図書館	研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大
	28. 3. 18-19	豊橋市	豊橋市図書館 他	研究助手 武田 祐樹
	28. 3. 19	成田市	成田山仏教図書館	研究助手 楊 爽
	28. 3. 26-27	成田市	成田山仏教図書館	研究助手 楊 爽
	28. 3. 28-31	大阪市	大阪府立中之島図書館	研究助手 楊 爽
28	28. 4. 30	笠岡市	笠岡市喜多村家	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28. 6. 24-26	気仙沼市	鮎貝邸煙雲館	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28. 6. 28-7. 1	千代田区	東アジア学術総合研究所	支援事業連携者・浙江大学講師 ヴィグル・マティアス
	28. 7. 3-4	京都市	大谷大学	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28. 7. 3-4	倉敷市	倉敷市玉島図書館	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
				事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹
	28. 7. 14-17	松山市 他	松山市立子規記念博物館 他	事業推進担当者・特命教授 加藤 國安
	28. 7. 30-8. 2	多久市 他	多久聖廟 他	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
	28. 7. 31-8. 2			事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
	28. 7. 31-8. 4			事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28. 8. 18-19	倉敷市 他	倉敷市玉島図書館	事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹
	28. 8. 22-23	仙台市	東北大学附属図書館	研究助手 阿部 和正
	28. 9. 6-9	大阪市	公益財団法人 武田科学振興財団 杏雨書屋	研究支援者・文学部非常勤講師 清水 信子
	28. 11. 2-5	一関市	芦東山記念館 他	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28. 12. 2-4	倉敷市	倉敷市玉島図書館	研究助手 楊 爽
	28. 12. 2-5			研究助手 武田 祐樹
	28. 12. 4			事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹
	28. 12. 9	柏市	本学柏キャンパス	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎

	高梁市	高梁市山田敦氏宅	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 2. 13	柏市	本学柏キャンパス	研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大
29. 2. 23-25	松山市	松山市立子規記念博物館 他	事業推進担当者・特命教授 加藤 國安
29. 3. 15-18	みやま市	みやま市立図書館 他	研究助手 平崎 真右
29. 3. 17-20	岡山市 他	岡山大学図書館 他	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 3. 27-29	名古屋市	名古屋大学図書館 他	研究助手 加畠 智子
	柏市	本学柏キャンパス	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 5. 14-15	福岡市	能古島博物館	事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹
29. 7. 18	柏市	本学柏キャンパス	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 7. 20-22	新潟市	新潟県立図書館	事業推進担当者・文学部教授 山口 直孝
29. 8. 1-2	新潟県	良寛記念館 他	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 8. 1-2			事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
29. 8. 1-2			事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
29. 8. 1-3	松山市	松山市立子規記念博物館	事業推進担当者・特命教授 加藤 國安
29. 8. 1-4	大阪市	公益財団法人 武田科学振興財団 杏雨書屋	研究支援者・文学部非常勤講師 清水 信子
29. 8. 8-9	仙台市	宮城県図書館 他	研究助手 平崎 真右
29. 8. 9-14	小笠原諸島(父島)	小笠原ビジャーセンター 他	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 8. 31-9. 1	仙台市	東北大学附属図書館	研究助手 阿部 和正
29. 9. 8	つくば市	筑波大学図書館	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			研究助手 加畠 智子
29. 10. 11-12	豊橋市	愛知大学 他	研究助手 平崎 真右
29. 11. 3-5	倉敷市	倉敷市玉島図書館	事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹
29. 11. 3-9			研究助手 武田 祐樹
29. 11. 3-9			研究助手 楊 爽
29. 11. 4	京都府	久保雅友の墓及び若王子神社の東方 斎荒尾精神碑	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 11. 8-10	加賀郡(岡山県)	吉備中央町 片山猶存邸 他	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 11. 30-12. 1	仙台市	東北大学附属図書館	事業推進担当者・文学部教授 山口 直孝
29. 12. 4	和歌山県	高野山大学	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			研究助手 武田 祐樹
29. 12. 11	柏市	本学柏キャンパス	研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大
29. 12. 18			
30. 1. 26-27	岡山市 他	岡山大学附属図書館 他	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
30. 3. 5	福山市	木下彪子孫宅 他	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
30. 3. 10-12	福岡市 他	亀陽文庫 他	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
			事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎

3-3 派遣

年度	派遣期間	派遣先	会場等	用務	派遣者
27	27.10.2-5	全国藩校サミット第13回福岡大会	ホテルニューオータニ博多	参加	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
	27.10.11-12	くらしき市民講座	倉敷物語館	講師	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	27.10.12-13	倉敷市	倉敷市役所 他	会議	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
	27.10.16-18	中国三省大学日本語教育学会	安徽大学	講演	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
	27.10.30-11.3	SRF主催国際シンポジウム	浙江工商大学	発表	支援事業連携者・文学部准教授 町 泉寿郎
				発表	支援事業連携者・文学部准教授 松本 健太郎
	27.11.20-23	くらしき市民講座	倉敷物語館	講師	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28.3.3-4	倉敷市	倉敷市立美術館	協議	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28.3.11-13	SRF主催国際シンポジウム	倉敷市立美術館講堂	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
				発表	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
				発表	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
				発表	事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹
				発表	事業推進担当者・特命教授 加藤 国安
				参加	事業推進担当者・大東文化大学講師 上地 宏一
				発表	研究員 德重 公美
				発表	研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大
				発表	研究支援者・文学部非常勤講師 清水 信子
				参加	研究助手 加畠 智子
28	28.3.12-13	SRF主催国際シンポジウム	倉敷市立美術館講堂	発表	事業推進担当者・文学部教授 山口 直孝
	28.3.17-19	咸宜園	咸宜園	協議	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
	28.3.28-31	SRF共催国際シンポジウム	台湾大学 台湾師範大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
				発表	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
				発表	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
	28.5.1	講演会	倉敷物語館	講演	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28.5.6-8	第8回東アジア文化交渉学会年次大会	関西大学	発表	研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大
	28.5.16	藤田東湖書扁額「麗澤」寄贈記念式典	水戸弘道館	参加	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28.5.22-23	倉敷市	倉敷物語館	協議	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28.6.18	富士市	加藤虎之亮子孫宅	協議	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
28	28.7.3-4	日本易学連合会シンポジウム	大阪大学	参加	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28.7.3-4			参加	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
	28.7.3-4			参加	事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹
	28.7.13-15	釜山大学校佔畢斎研究所主催国際シンポジウム	釜山大学校	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
	28.7.13-15			参加	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
	28.7.13-16			発表	支援事業連携者 德重 公美

28. 7. 14-15	備中倉敷学	倉敷公民館	講演	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
28. 8. 18-20	山田方谷の軌跡（～奇跡）講演会	井原市民会館	講演	事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹
28. 10. 21-23	中国日語教学研究会浙皖赣分会2016年会	江西師範大学	講演	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
28. 10. 23-25	上海師範大学・復旦大学・華東師範大学	上海師範大学・復旦大学 華東師範大学	協議	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			協議	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
28. 10. 28-30	情報処理学会第112回研究発表会	同志社大学	参加	事業推進担当者・大東文化大学講師 上地 宏一
28. 11. 2-5	芦東山シンポジウム	早稲田大学 一関市摺沢市民センター	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
28. 11. 27-28	慶尚大学校講演会	慶尚大学校（韓国）	講演	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
28. 11. 29-12. 3	東アジア日本研究者協議会第1回学術大会	松島コンベンシア（韓国）	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
28. 11. 29-12. 3			発表	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
28. 11. 29-12. 2			発表	事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹
28. 11. 29-12. 3			発表	支援事業連携者・浙江大学講師 ヴィグル・マティアス
28. 11. 29-12. 3			発表	研究員 山口 智弘
28. 11. 29-12. 3			発表	研究助手 加畠 聰子
28. 11. 30-12. 3			発表	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
28. 11. 30-12. 2			参加	事業推進担当者・成均館大学校研究教授 朴 喆美
28. 12. 3	くらしき市民講座	ライフパーク倉敷	講演	事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹
28. 12. 4	多久市「孔子の里」主催第19回漢詩コンクール	多久市孔子の里	参加	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
28. 12. 5-6	日田市教育委員会主催・SRF共催講演会	日田市役所	参加	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			講演	支援事業連携者・学校法人二松學舎顧問 石川 忠久
28. 12. 11-12	真宗法難事件に関する研究会	大谷大学	参加	研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大
28. 12. 23-26	SRF主催国際シンポジウム	上海師範大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
28. 12. 24-26			参加	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
28. 12. 24-26			発表	研究支援者・文学部非常勤講師 清水 信子
29. 1. 30-31	SRF・渋沢栄一記念財団共催シンポジウム	倉敷市立美術館	参加	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 1. 30-2. 1			発表	事業推進担当者・成均館大学校研究教授 朴 喆美
29. 2. 11	SRF主催国際シンポジウム	パリ第7大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			参加	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
			発表	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
			発表	研究支援者・文学部非常勤講師 清水 信子
			発表	支援事業連携者・浙江大学講師 ヴィグル・マティアス
29. 3. 17-18	SRF・三原市教育委員会主催講演会	三原市中央公民館	講演	事業推進担当者・文子部特別招聘教 授 鈴田 篤信
29. 3. 17-18			講演	事業推進担当者・文子部特別招聘教 授 野間 文史
29. 3. 18-19			参加	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
29. 3. 20	国際日本文化研究センター	国際日本文化研究センター	協議	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 5. 4-6	東亜筆談読書会	浙江大学	講演	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎

29. 5. 13-14	第9回東アジア文化交渉学会年次大会	北京外国语大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			発表	研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大
29. 5. 15-17	共同開催シンポジウム	釜山大学校佔畢斎研究所	協議	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 8. 21-26 29. 8. 21-24 29. 8. 27-30	SRF・浙江工商大学共催日本漢学上級セミナー	浙江工商大学	講師	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
				事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
				事業推進担当者・文学部教授 田中 正樹
29. 9. 15-17	大連大学創立30周年記念シンポジウム	大連大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			発表	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
			発表	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
29. 9. 18-19	SRF・魯東大学共催シンポジウム検討会	魯東大学	協議	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
			協議	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
29. 10. 5-8	東亜漢学国際学術研討会	佛光大学	講演	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 10. 27-29	東アジア日本研究者協議会第2回学術大会	南開大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			発表	事業推進担当者・檀国大学校常任研究員 朴 喆美
			発表	研究支援者・文学部非常勤講師 川邊 雄大
29. 11. 3	Confucian Modernity as Japanese Experience in East Asian Context	京都大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29	SRF・北京第二外国语大学共催シンポジウム	北京第二外国语大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
			発表	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
			発表	事業推進担当者・檀国大学校常任研究員 朴 喆美
			発表	研究員 商 兆琦
			発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 11. 7-8	SRF・魯東大学共催国際学術会議	魯東大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			発表	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
			講演	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
			発表	研究員 商 兆琦
29. 11. 9	公益財団法人竜王会館主催講演会	野崎家別邸（倉敷市）	講演	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 11. 17-20	「東アジア文明—継承と創造」フォーラム 浙江大学主催・SRF共催シンポジウム「東アジア筆談研究」	浙江大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			発表	支援事業連携者・文学部講師 ヴィグル・マティアス
29. 12. 1	西周研究会	島根県立大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
29. 12. 2-3	第27回懐徳堂研究会	大阪大学	講演	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			参加	研究助手 武田 祐樹
29. 12. 9	第12回台湾大学日本語文創新国際学術研討会	台湾大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			発表	研究助手 楊 爽
			発表	研究助手 加畠 聰子
30. 1. 28	「山田方谷の軌跡（～奇跡～）」実行委員会 主催講演会	笠岡市中央公民館	講演	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎

30. 1. 29	シンポジウム「近代岡山における実業家と学術・文化・公益事業」	新溪園（倉敷市）	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			司会	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
30. 2. 23-3. 2	研究報告会・学術交流会・ワークショップ	ライデン大学・リヨン第三大学・ボルドー大学	発表	事業推進担当者・文学部教授 町 泉寿郎
			発表	事業推進担当者・文学部教授 牧角 悅子
			発表	事業推進担当者・文学部教授 江藤 茂博
			発表	支援事業連携者・浙江大学講師 ヴィグル・マティアス

4 諸会議

4-1 担当者会議

年度	回	開催日	主な議題	
27	1	27. 10. 1	SRF関係規程	SRF事業推進計画 平成27年度経費概算
	2	27. 10. 22	支援事業連携者の追加	SRFシンポジウムの開催 資料展示・公開講座の実施
	3	27. 11. 12	研究員等の採用	SRFシンポジウム開催報告
	4	27. 12. 24	事業推進担当者等の追加	国際シンポジウムの開催 ワークショップの開催
	5	28. 2. 25	平成28年度研究員等の公募	国際シンポジウムの開催 テーブルスピーチの開催
	6	28. 3. 22	平成28年度研究員等の採用	平成28年度の活動計画 国際シンポジウムの開催
28	1	28. 5. 26	支援事業連携者の追加	成果物の刊行 国内資料調査の実施
	2	28. 6. 30	講演会への講師派遣	シンポジウムの開催 データベース構築
	3	28. 7. 21	資料展示	公開講座の開講 EACJSへの参加
	4	28. 9. 15	公開講演会の開催	シンポジウムへの参加 共催シンポジウムの開催
	5	28. 12. 22	シンポジウムの開催	資料調査の実施 平成28年度研究員等の公募
	6	29. 3. 2	支援事業連携者の追加	平成29年度研究員等の採用 シンポジウムの開催
	7	29. 3. 23	平成29年度 事業計画	成果物の刊行 テーブルスピーチの開催
29	1	29. 10. 12	支援事業連携者等の追加	国際シンポジウムへの参加 成果物の刊行
	2	29. 11. 30	テーブルスピーチの開催	研究会への講師派遣 シンポジウムの開催
	3	29. 12. 18	国際学術交流会の開催	平成30年度研究員等の公募
	4	30. 3. 8	平成30年度 事業計画	平成30年度研究員等の採用 シンポジウムの開催

4-2 関係者会議

年度	回	開催日	主な議題		
27	1	28. 3. 11	事業計画	27年度の活動報告	28年度の計画
28	2	29. 3. 12	28年度の活動報告	各関係機関の活動報告	各関係機関との連携

5 経理

5-1 経費

	小科目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
教育研究経費支出	消耗品費	2,477,693	3,510,670	6,531,913
	通信運搬費	280,683	549,974	621,169
	印刷製本費	1,377,683	2,772,264	3,373,355
	旅費交通費	4,439,123	6,846,201	7,646,372
	報酬・委託料	10,763,143	10,085,321	4,700,837
	賃借料	16,101	32,050	40,538
	保険料	7,940	13,658	29,387
	会議費	177,010	19,520	66,014
	涉外費	—	183,400	212,000
	諸謝金	569,543	511,739	496,645
アルバイト関係支出	雑費	—	4,700	12,267
	計	20,108,919	24,529,497	23,730,497
	人件費支出	71,050	75,835	159,351
設備関係支出	教育研究用機器備品	5,566,470	274,860	—
	図書	10,231,344	11,095,572	11,591,149
	計	15,797,814	11,370,432	11,591,149
研究スタッフ関係支出	リサーチ・アシスタント	570,240	1,725,940	1,776,330
	ポスト・ドクター	817,680	2,481,880	2,444,200
	研究支援者	485,840	1,395,820	1,286,180
	研究支援推進経費	256,761	209,911	153,295
	計	2,130,521	5,813,551	5,660,005
その他	その他	862,448	42,600	344,309
	計	862,448	42,600	344,309
合 計		38,970,752	41,831,915	41,485,311

○ 二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤
形成支援事業に関する規程
(平成27年11月24日制定)

(目的)

第1条 この規程は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択に伴う研究拠点の形成に関する諸事業（以下「支援事業」という。）推進のため、必要な事項を定めることを目的とする。

(構成員)

第2条 採択された支援事業の構成員は、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業構想調書（以下「構想調書」）で届け出た研究者とする。

(支援事業の管理)

第3条 採択された支援事業を管理するため、二松学舎大学学則第9条の2に定める大学運営会議において、次の事項を審議する。

- (1) 支援事業の進捗及び予算管理に関する事項
- (2) 支援事業の自己点検・評価に関する事項
- (3) その他事業の推進に必要な事項

(担当者会議の審議事項)

第4条 採択された支援事業を推進するため、事業推進担当者会議（以下「担当者会議」）を置き、次の事項を審議する。

- (1) 実施計画及び年度事業計画の進捗に関する事項
- (2) 予算執行に関する事項
- (3) 若手研究者（P.D./R.A.）に関する事項
- (4) その他事業の推進に必要な事項

2 担当者会議で審議した事項は、学長に報告するとともに、必要に応じ大学運営会議に報告するものとする。

(担当者会議の構成)

第5条 担当者会議は、次の者をもって構成する。

- (1) 構想調書で届け出た研究者
- (2) 構想調書で届け出た研究施設を所掌する部局長
- (3) 大学改革推進部長

2 担当者会議に大学推進課長及び同課員が出席し、学校法人及び大学関係部門との連絡調整等にあたる。

(担当者会議の運営)

第6条 研究代表者は、担当者会議を招集し、その議長となる。

(支援事業連携者)

第7条 支援事業を推進するため、第2条の構成員のほか、本学の教員その他国内外の研究者を支援事業連携者として加えることができる。

2 前項の支援事業連携者のうち学外の連携者の選考は、研究代表者及び担当者会議の互選による各班の主任

（以下「各班の主任」という。）がこれを行い、担当者会議の議を経て、大学運営会議に報告し、学長が委嘱するものとする。

(支援事業研究員等)

第8条 支援事業を推進するため、当該事業の学術領域に係る支援事業研究員及び支援事業研究支援者並びに支援事業研究助手（以下「支援事業研究員等」という。）を置くことができる。

- 2 前項の支援事業研究員は、支援事業の一定の職務を分担して研究に従事する。
- 3 第1項の支援事業研究支援者は、支援事業の研究支援のため専門的な知識・技能を必要とする業務に従事する。
- 4 第1項の支援事業研究助手は、支援事業に必要な補助的業務に研究補助者として従事する。
- 5 第2項から第4項までの支援事業研究員等の資格、待遇、選考方法等は別に定める。

(外部評価)

第9条 研究成果の信頼性及び妥当性を客観的に評価することを目的として、外部有識者3名による外部評価委員会を置くものとする。

- 2 前項の外部評価委員会委員の選考は、研究代表者及び各班の主任がこれを行い、担当者会議の議を経て、大学運営会議に報告し、学長が委嘱するものとする。

(支援事業事務局)

第10条 支援事業の文部科学省への報告及び予算若しくは支出管理等の事務処理を行うため支援事業事務局を置き、所定の事務を処理する。

- 2 支援事業事務局は、第5条第2項の職員及び専任又は非常勤の事務職員、並びに契約社員により構成するものとする。

(経費)

第11条 支援事業の経費は、他の大学経常経費と区分して支出し、「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に係る計画調書の記入要領」の定めるところに従い文部科学省より補助を受けるものとする。

(補助の経理管理)

第12条 前条の補助の経理管理は、企画・財務部経理課が行う。

(規程の改廃)

第13条 この規程の改廃は、大学運営会議の議を経て理事会が行う。

附 則

1. この規程は、平成27年11月24日から施行する。
2. この規程は、支援事業採択後の平成27年度の事業から適用する。

○ 二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤
形成支援事業研究員に関する内規
(平成27年11月24日制定)

(目的)

第1条 この内規は、二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に関する規程（以下「規程」という。）第8条第2項に基づき、支援事業研究員の選考等について定めることを目的とする。

(資格)

第2条 支援事業研究員となることのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 博士の学位を取得した者
- (2) 当該年度の前年度の3月31日までに博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を取得し、当該年度の4月1日現在大学院に在学しない者で、博士の学位を取得した者に相当する能力を有すると認められる者（ただし、日本学術振興会特別研究員となっている者を除く。）

(出願手続)

第3条 支援事業研究員に応募する者は、以下の書類を定められた期日までに、研究代表者に提出しなければならない。

- (1) 履歴書
- (2) 研究計画書
- (3) 研究業績書
- (4) その他、指示された書類

(選考等)

第4条 支援事業研究員の選考は、研究代表者及び担当者会議の互選による各班の主任（以下「各班の主任」という。）がこれを行い、担当者会議の議を経て、大学運営会議に報告し、学長が委嘱するものとする。

(人員)

第5条 支援事業研究員の人員は、毎年度若干名とする。

(職務)

第6条 支援事業研究員は、当該事業の研究に従事するとともに、当該事業で実施する研究会、講習会等に参加する。

- 2 支援事業研究員は、支援事業研究助手の指導等に当たる。
- 3 支援事業研究員は、研究成果を毎年公表するものとする。

(勤務時間等)

第7条 支援事業研究員は、原則として週2日以上東アジア学術総合研究所に勤務する。

- 2 勤務時間は、次のとおりとする。ただし、勤務日、

勤務時間等は変更する場合がある。

月曜日から土曜日 9時から16時30分

(給与等)

第8条 支援事業研究員の給与は、第7条第1項及び第2項の勤務を1ヵ月間行った場合は、月額20万円支給する。ただし、交通費は別途実費を支給する。

(任期等)

第9条 支援事業研究員の任期は、当該年度1年以内とする。ただし、担当者会議の議を経て大学運営会議に報告し継続が認められた者は、1年に限り任期を更新することができる。

附 則

1. この内規は、平成27年11月24日から施行する。
2. この内規は、支援事業採択後の平成27年度の事業から適用する。

○ 二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤
形成支援事業研究支援者に関する内規
(平成27年11月24日制定)

(目的)

第1条 この内規は、二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に関する規程（以下「規程」という。）第8条第3項に基づき、支援事業研究支援者の選考等について定めることを目的とする。

(資格)

第2条 支援事業研究支援者となることのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 本学の非常勤講師で、任期が1年以内の者
- (2) その他、規程第4条に規定する担当者会議で特に必要と認められた者

(出願手続)

第3条 支援事業研究支援者に応募する者は、以下の書類を定められた期日までに、研究代表者に提出しなければならない。

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績書
- (3) その他、指示された書類

(選考等)

第4条 支援事業研究支援者の選考は、研究代表者及び担当者会議の互選による各班の主任（以下「各班の主任」という。）がこれを行い、担当者会議の議を経て、大学運営会議に報告し、学長が委嘱するものとする。

(人員)

第5条 支援事業研究支援者の人員は、毎年度若干名とする。

(職務)

第6条 支援事業研究支援者は、研究代表者の指導のもと、当該事業の研究を支援するとともに、当該事業で実施する研究会、講習会等に参加する。

2 支援事業研究支援者は、支援事業研究助手の指導等に当たる。

(勤務時間等)

第7条 支援事業研究支援者の勤務日及び勤務時間は、採用時の契約による。

(給与)

第8条 支援事業研究支援者の給与は、時間給とし、大学非常勤講師給与基準表の「1コマ月額」を1か月につき16時間で除した時給に準じ、採用時に定める。ただし、交通費は別途実費を支給する。

(任期等)

第9条 支援事業研究支援者の任期は、当該年度1年以

内とする。ただし、担当者会議の議を経て大学運営会議に報告し継続が認められた者は、任期を更新することができる。

附 則

1. この内規は、平成27年11月24日から施行する。
2. この内規は、支援事業採択後の平成27年度の事業から適用する。

○ 二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤
形成支援事業研究助手に関する内規
(平成27年11月24日制定)

(目的)

第1条 この内規は、二松学舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に関する規程（以下「規程」という。）第8条第4項に基づき、支援事業研究助手の選考等について定めることを目的とする。

(資格)

第2条 支援事業研究助手となることのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 本学大学院文学研究科博士後期課程に在籍している者
- (2) 本学大学院文学研究科博士後期課程満期退学者・修了者
- (3) その他、規程第8条に規定する担当者会議で特に必要と認められた者

(出願手続)

第3条 支援事業研究助手に応募する者は、指示された書類を定められた期日までに、研究代表者に提出しなければならない。

(選考等)

第4条 支援事業研究助手の選考は、研究代表者及び担当者会議の互選による各班の主任（以下「各班の主任」という。）がこれを行い、担当者会議の議を経て、大学運営会議に報告し、学長が委嘱するものとする。

(人員)

第5条 支援事業研究助手の人員は、毎年度若干名とする。

(職務)

第6条 支援事業研究助手は、研究代表者の指導のもと、資料の整理及びデータの入力作業等に従事するとともに、当該事業で実施する研究会、講習会等に参加する。

(勤務時間等)

第7条 支援事業研究助手の勤務日及び勤務時間は、採用時の契約による。

(給与)

第8条 支援事業研究助手の給与は、時間給とし、採用時に定める。ただし、交通費は別途実費を支給する。

(任期等)

第9条 支援事業研究助手の任期は、当該年度1年以内とする。ただし、担当者会議の議を経て大学運営会議に報告し継続が認められた者は、任期を更新することができる。

(準用規定)

第10条 この内規に定めのない事項については、学校法人二松学舎準職員等就業規則の補助職員の定めを準用する。

附 則

1. この内規は、平成27年11月24日から施行する。
2. この内規は、支援事業採択後の平成27年度の事業から適用する。

